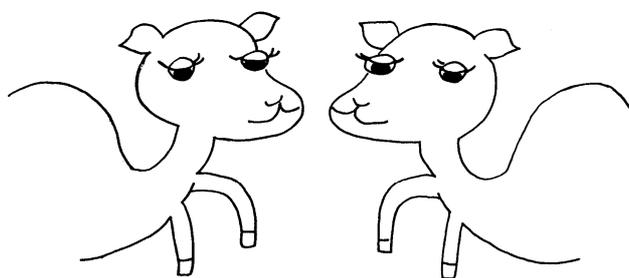


平成24(2012)年度

市民活動センターたちかわ 事業報告



ひら
市民社会を拓きたい



◆問合せ◆

社会福祉法人 立川市社会福祉協議会

市民活動センターたちかわ

〒190-0013 立川市富士見町 2-36-47

TEL:042-529-8323 FAX:042-548-1724

E-mail aiaivc@whi.m-net.ne.jp

<http://www.tachikawa-shakyo.jp/skct/>

(月) - (金) 8:30 - 19:00

(土) 8:30 - 17:00

※(日)・祝日はお休みです

目 次

■はじめに	3
■1章 市民活動センターたちかわとは	
I.市民活動センターたちかわの使命と基本方針	4
II.立川のまちの特性	4
III.市民活動センターたちかわの描く「立川市民像」	5
IV.市民活動センターたちかわの主なサービス	5
V.市民活動センターたちかわの特色	7
■2章 平成24年度の活動	
I.1年間の相談集計結果と分析	8
II.平成24年度 地域福祉コーディネーター活動報告	17
III.4つの活動の柱	33
1.市民参画の運営委員会によるセンター運営	33
2.協働の推進	36
3.地域づくり	41
4.市民活動支援	47
5.その他	54
IV.平成24年度の市民活動センター事業を振り返って	56
V.平成25年度に向けて	58
VI.平成24年度収支決算(概略)	59
■3章 資料	60
I.平成24年度登録団体	60
II.平成24年度登録サロン	66

※1章については、市民活動センターたちかわ運営委員で分担執筆しました。

はじめに

市民活動センターたちかわが誕生したわけは

社会制度の規制緩和や格差社会、少子高齢化といった人口構造や家族機能の変容など、社会環境が激しく変化している。

雇用環境の悪化やひきこもりなどの新たな社会問題が表出し、行政からの一律的サービスだけでは解決できない多様な生活課題も浮き彫りとなっている。

地球環境の変化による生命の危機が現実味を帯び、巨大災害も頻発している。

市民・行政・企業がそれぞれの力を引き出しあいながら、持続可能な社会を創っていかなければ、未来は構築できないことに私たち市民は気付きはじめています。

ひとりひとりの市民がどう社会に参画していくかが重要な時代である。

一方、阪神・淡路大震災を契機としたボランティア活動への関心の高まりや、NPO 法（特定非営利活動促進法）の制定、さまざまな市民活動団体の登場など、ボランティア・市民活動のあり様も多様化している。

こうしたことを背景に、センターに寄せられる相談や情報も実に幅広く多様となってきている。

期待される役割や事業、サービスのあり方も変化してきている。

多様性に応えられ、社会課題の解決に貢献し、たくさんの人と活動をつなぐ、市民にとって真に必要なとされるセンターであるために、市民活動センターたちかわ（以下センターという）は、平成 15 年 4 月に「立川ボランティアセンター」から機能拡大をし、再スタートするに至った。

1 章 市民活動センターたちかわとは

I. 市民活動センターたちかわの使命と基本方針

【使命】

市民社会を拓きたい

【基本方針】

私たちは「市民」を、次のように思い描いています

- 1.自分で考えて行動する
- 2.社会のために行動する
- 3.地球のために行動する

私たちの考える市民社会とは、多様な人々が連携し、社会の課題解決に向けて取り組み、誰もが希望を持って生活できる社会である、と考えています。

II. 立川のまちの特性

○人口：立川市の人口は 2013 年 2 月 1 日現在で 178,327 人、世帯数は 84,801 世帯である。戦前戦後にかけて急激な増加を続けてきた人口は、1975 年以降はゆるやかな増加に転じ現在に至っている。

※1

今後の予測として、立川市の「第三次長期総合計画」（2000 年 3 月策定）では、2014 年における人口が、概ね 19 万人、昼間人口は 24 万人と想定している。

急激な人口増加は市民の中で他地域からの移住者が占める割合が大きいことを示している。

2012 年 3 月 31 日現在立川市の 1 世帯あたり人員は 2.12 人である。12 年前の 2000 年は 2.38 人、21 年前の 1990 年時点では 2.69 人であり、確実に 1 世帯あたりの人数は減少している。 ※2

○面積：24.38 平方キロメートル。 ※3

○地域的特色：東京都の中央西よりあって、都心から 40km 圏、東京駅から電車で 50 分程度の位置にあり、八つの市に隣接している。地形的には、市城南端の日野市との境に多摩川が流れ広々とした河川敷を構成し、河岸段丘崖に緑の多い傾斜地があるほかは、概ね平坦な地形である。市全域が都市計画区域に指定されている。

また市内には JR 中央線など東西方向に 5 路線の鉄道が通るほか、多摩都市モノレールの開通により南北方向の交通も確保され、立川駅はあらゆる方向からのアクセスが容易な多摩地域の交通の中心となっている。その結果、立川駅を中心として商業・飲食施設や事務所施設などが集積、その周辺に密度の高い市街地を形成する一方、国営公園や市北部地域の農地・屋敷林・玉川上水など、緑とオープンスペースも比較的多く残されており、近代的な町並みと郊外的なうらおいが共存する、多様な面のある地域特性を持っている。 ※4

※1,2,3 立川市ホームページから

※4 『立川市第3次長期総合計画』「I 総序-2 本市の特徴」から

Ⅲ. 市民活動センターたちかわの描く「立川市民像」

『市民意向調査報告書』（2008年11月）によれば、立川市を住みよいまちだと思う人は78.4%を占めており、また今後進めていくべき重点施策として最も多いのが「高齢者福祉の充実」（43.7%）であった。^{※5}

※5 「立川市第3次長期総合計画第3次基本計画」策定に向けて、同年8月に市民計2000人を対象に実施

このような特色を持つ立川市民に対して、市民活動センターたちかわとしては今後に向けてどのような「立川市民像」を目指して事業を行っていくべきだろうか。

まず市民がお互いにつながっているという意識を拓いていくことを大切にしたい。いま求められている「つながり」とは、人びとが自由な意思に基づき、協力し、助けあい、出会いを楽しみながら、自分たち自身で住みよいまち・社会を形成していくための営みである。

すでに人々がつながりを形成している場として、会社、学校、サークル、市民活動グループ・団体、地域自治会、PTA など、すでにあるつながりに加え、新たにつながりづくりの支援を行っていくことが、市民活動センターたちかわに求められているといえる。

Ⅳ. 市民活動センターたちかわの主なサービス

☆総合相談機能を持って、様々な市民活動の支援、サービスをしています。

■『協働の推進』……(協働支援センターの機能)

- 協働の仕組みづくり
 - ・NPOと行政や企業とをつなぐコーディネート
- 市民活動団体との協働事業や地域イベント開催を支援
 - ・「ふれあいミュージックフェスティバル」
 - ・「春・秋の楽市」
 - ・各種企画委員会やプログラムへのスタッフ派遣等
- 企業のCSR(社会的責任)活動への支援
 - ・社員のボランティア活動コーディネート
 - ・新任研修への協力

■『地域づくり』……(地域活動支援センターの機能)

- 地域福祉コーディネーター
 - ・市内3地区(栄町・若葉町地区/上砂町・一番町・西砂町地区/錦町・羽衣町)に専任で配属し、地域課題の解決を支援
- 学校を核とした市民学習支援

- ・市内の小中学校・高校、各種学校の授業プログラムを地域の住民や機関、市民活動団体とともに実施
- ・教育機関や市民活動団体の連携を支援
- グッドネイバー運動推進団体の支援
- ・「よき隣人」をキーワードに、小地域単位での住民主体のまちづくりを進める、市内4ヵ所(柴崎・栄・若葉・西砂一番)の団体の支援
- 地域懇談会の開催
- ・地域懇談会では、「防災」や「ごみ対策」などをテーマにワークショップなどを開催しながら、住民同士の顔の見える関係づくりを進める。
- 「支えあいサロン」活動の支援

■『市民活動支援』……(ボランティアセンター・NPO支援センターの機能)

- 日々の市民活動に関する相談
 - ・「ボランティアしたい」「サポートしてくれる市民活動団体を探している」「NPO法人を立ち上げるにはどうしたらいいのか」「立川でイベントをするので広報周知してほしい」などの相談対応
- おもしろボランティア大学の開催
 - ・ボランティア活動を始めるきっかけとする講座の開催
- 市民活動体験プログラム
 - ・夏!体験ボランティア
 - ・楽市案内人ボランティア
- 情報の受発信
 - ・ホームページの運営と管理 各団体の活動情報を発信
 - ・市民活動情報コーナーの設置
紙媒体による情報収集、インターネットでの情報検索ができるコーナーを運営
 - ・情報誌『市民活動センター★たちかわ通信』を発行
 - ・『市民活動センター登録団体紹介BOOK』及び『ボランティア紹介冊子』の発行
 - ・市民活動センターたちかわ登録団体や情報希望者との連携
- NPO法人設立ガイダンス
 - ・NPO法の解説や法人化の意義、設立に向けた手順や事務についてのガイダンスを定例開催
- 市民活動団体向け実務講座
- 市民活動団体マネジメント講座
- 活動資金助成
 - ・立川市社会福祉協議会市民活動助成 市民活動団体の立ち上げまたは活動資金を支援
 - ・各種民間団体の助成情報の周知
- 活動スペースの貸出し
- 機材の貸出し
 - ・印刷機、拡大印刷機、コピー機、紙折り機、館内情報検索用パソコン、図書など各種備品の貸出し

・他の施設、団体と共有できる物品の貸出し

プロジェクター、スクリーン、マイク、アンプ、DVDプレーヤー

○ボランティア保険および行事保険の相談や加入受付

V. 市民活動センターたちかわの特色

「市民活動センターたちかわ」は市民で構成される運営委員と職員を交えた20余名の合議型運営方式で運営している。

ボランティアや市民活動団体を支援すること(中間支援)を通して、社会の様々な課題解決に貢献することを目指し、日々、市民や団体を『つなぎ』、『育み』、『拓く』役割を担っている。

また、私達のセンターの特色といえるのは、いろいろな所から寄せられる多様な相談を大事にしていることである。漠然とした行き場のない相談の中に、新たな社会の課題が見え隠れし、市民発の活動として取り組む意義のある案件が多く含まれているからである。

市民や市民活動団体から聞こえてくる多くの声から市民社会の見えないNeedsやwantsを探り『協働の推進』、『地域づくり』、『市民活動支援』の3つのキーワードからなる事業を推進していく。地域や市民に根ざしたセンターを目指して、相手の声を直接に聞き、コミュニケーションを取りながら適切な役割を担うという手法を積極的に取り入れている。



設立から10年が経過したが、センターは現状に満足することなく、「これからの公共」について発信力を持つ大阪ボランティア協会やせんだい・みやぎNPOセンターなど、各地の先進事例を学びながら、多くの市民から愛される市民活動センターとなるよう取り組んでいく。^{※1}

※1大阪ボランティア協会 <http://www.osakavol.org/>

せんだい・みやぎNPOセンター <http://www.minmin.org/>

2章 平成24年度の活動

I. 1年間の相談集計結果と分析

ボランティア活動やNPO、地域活動に関する相談を市民活動センター窓口や、立川市社会福祉協議会あいあいステーション窓口、地域で事業を実施する中で受け付けた。相談内容に応じて、情報提供、課題整理のお手伝い、人や機関をつなぐコーディネート、生活課題解決のための個別相談などにつなげた。

相談内容も多岐に渡るため、個々の相談に応じて、その場面で必要な役割と支援を見極めることと、相談者である市民自身が持つ解決力を引き出すことを、センターの相談受付においては大切にしている。

また、センターに寄せられる相談から、その時々々の社会課題、地域課題、市民活動に関する現状が浮かび上がってくる。これらの相談内容は、今後のセンター事業を方向付ける基盤となっている。寄せられる相談等の大きな特徴としては、以下の4点がある。

①「本当に役立つ情報」が求められている

センターだからこそ入手できる「具体的な人となりや活動が分かる情報」や「この辺りの地域で私たちが使える社会資源は何か」といった、きめ細やかな情報が求められている。また、ある情報を一面的に捉えるのではなく、そこから新たな可能性を引き出し「役立つ情報」にしていくことも大切な働きと捉えている。

②多様なつながりをつくる相談が増加している

障害者施設と企業の連携、企業の社会貢献や創業を支援するためのネットワークづくりなど、団体の活動分野を越えた多様なつながりをつくるための支援が増えている。立川というまちに密着したセンターなので、多様な連携によって生まれる市民への波及効果を意識しながら、連携していく姿勢を大事にしたい。

③地域に密着した活動により、課題の掘り起こしがしやすくなっている

地域福祉コーディネーターが配置され、地域における交流の場づくりや団体間のネットワークづくり、調査活動、普及啓発活動を行なっている。地域福祉コーディネーターの配置地区では、より地域に密着した活動が展開できるようになり、相談を待つだけでなく、課題の掘り起こしや早期発見ができるようになった。平成25年度より3地区目の配置が決まり、地域福祉コーディネーターが掘り起こした課題をセンターと連携して解決し、さらに広がりを持つことが重要となっていく。

④専門機関との新たな連携が必要な相談が増加している

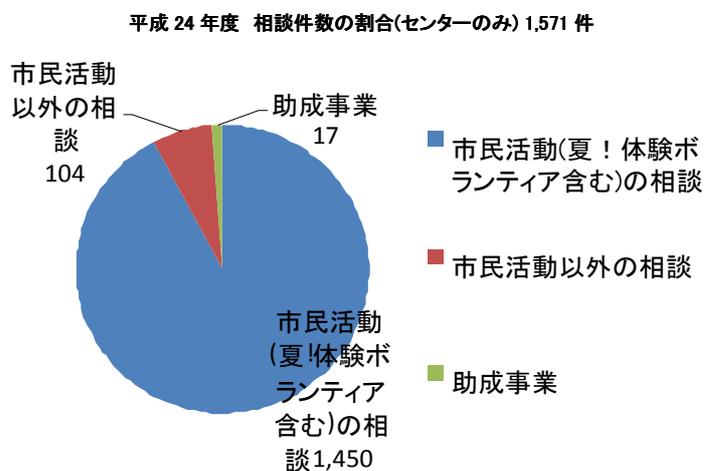
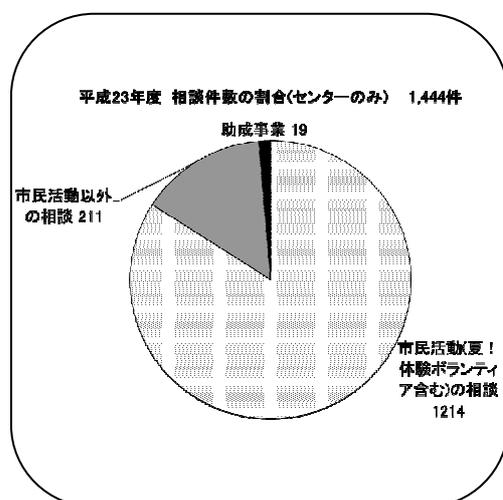
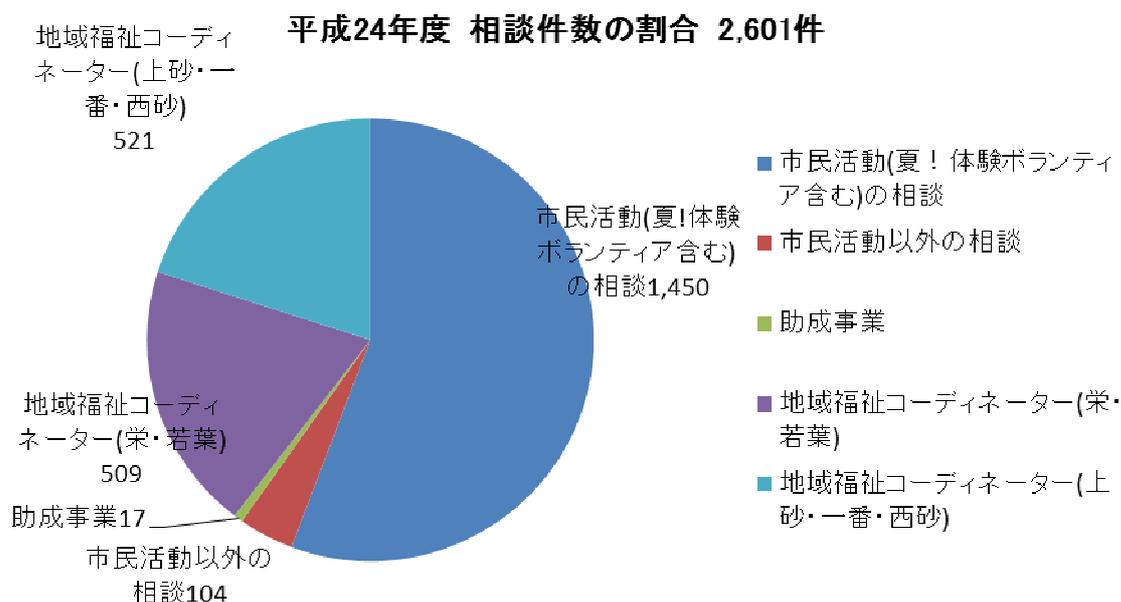
閉じこもりの方や、精神的ダメージを強く受けている方からの相談もある。そのため、カウンセリングの専門技術を必要とする相談なども見受けられる。センターとしての対応の限界点を見極めると同時に、新たな専門機関との連携が必須な状況である。

(1) 市民活動センターたちかわに寄せられた相談

○相談件数 2,601件 (平成24年4月1日～平成25年3月31日)

・市民活動に関する相談(夏！体験ボランティア 160件を含む)	1,450件
・市民活動以外の相談	104件
・助成事業申請相談	17件
・地域福祉コーディネーターへの相談(栄町・若葉町)	509件
・地域福祉コーディネーターへの相談(上砂町・一番町・西砂町)	521件

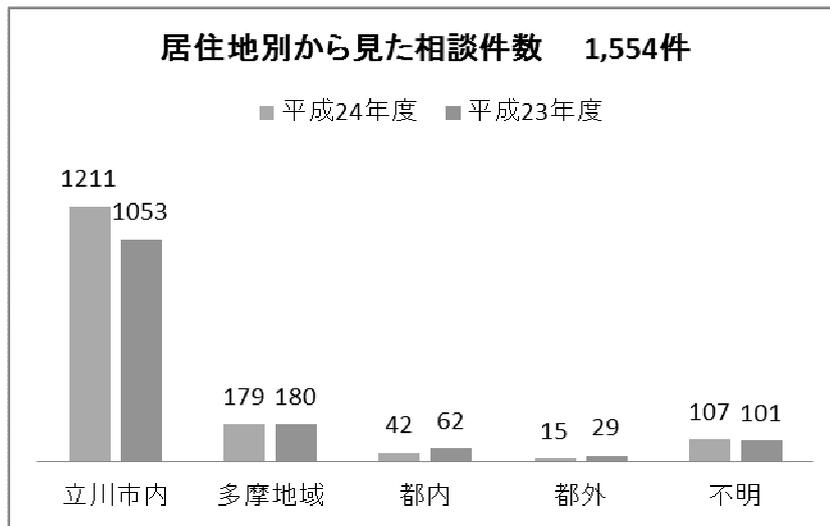
(2) 市民活動に関する相談



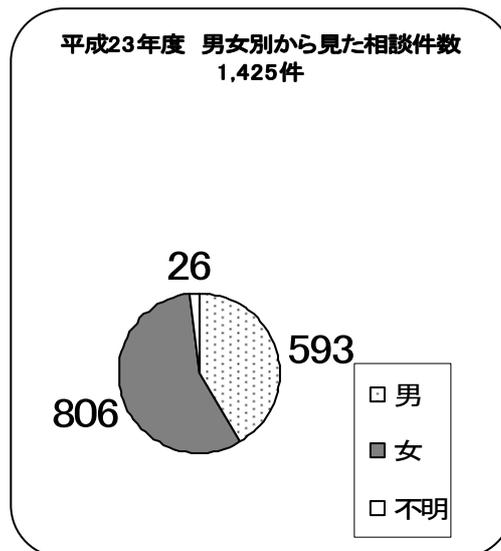
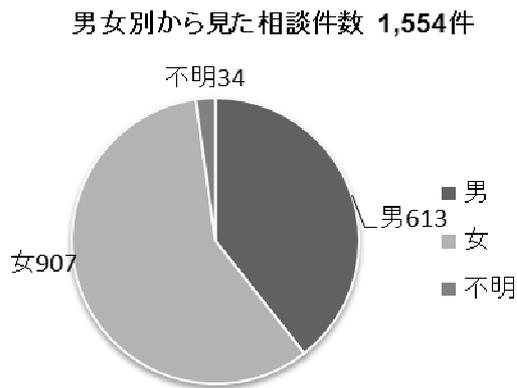
※以降の集計は市民活動に関する相談及び市民活動以外の相談（助成事業相談及び地域福祉コーディネーターへの相談は除く）件数を集計。

■相談者の様子

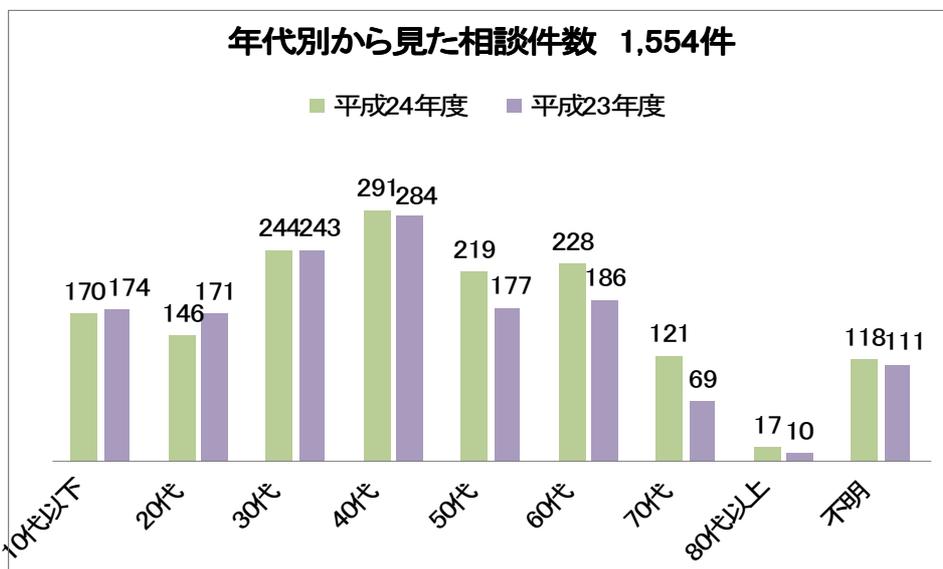
相談者の居住地は、センターの特性上、立川市内が最も多いが、市外からの相談も多く寄せられている。地域福祉コーディネーターの増配置により、センタースタッフにも、より地域に密着した相談が寄せられているため、市内からの相談件数は増加傾向にある。



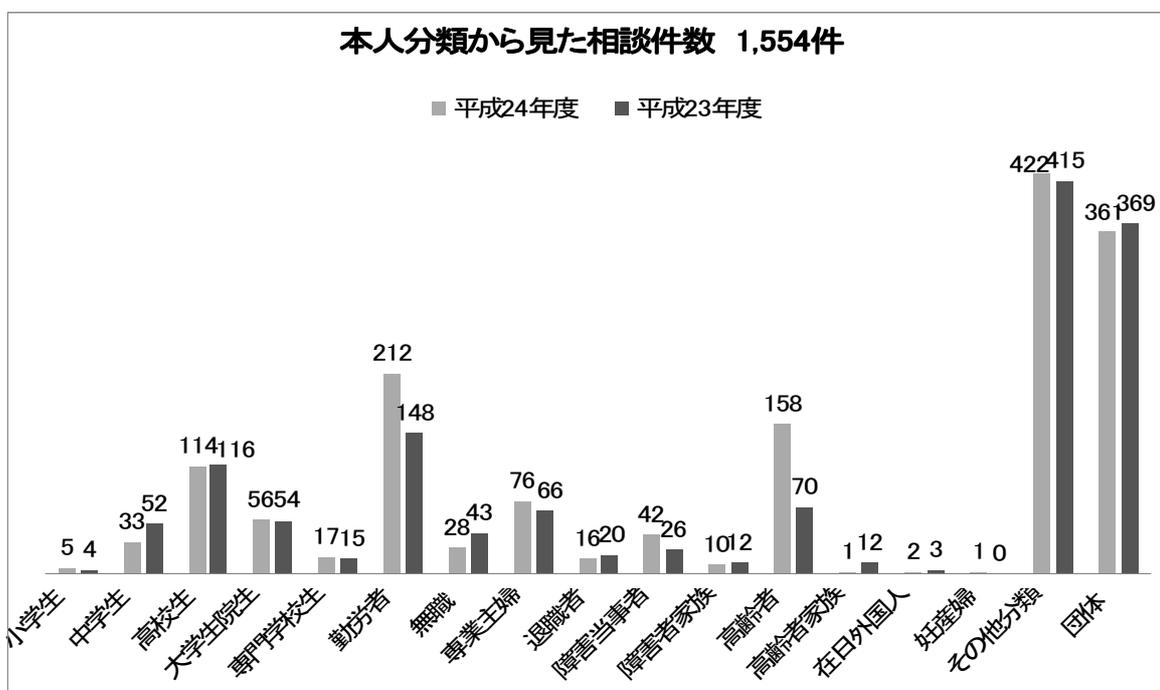
男女比は前年度と大きくは変わらないが、女性からの相談が増えている。



年代別の割合は、昨年度とほぼ同じであるが、30～70歳代の方からの相談の割合が増えている。

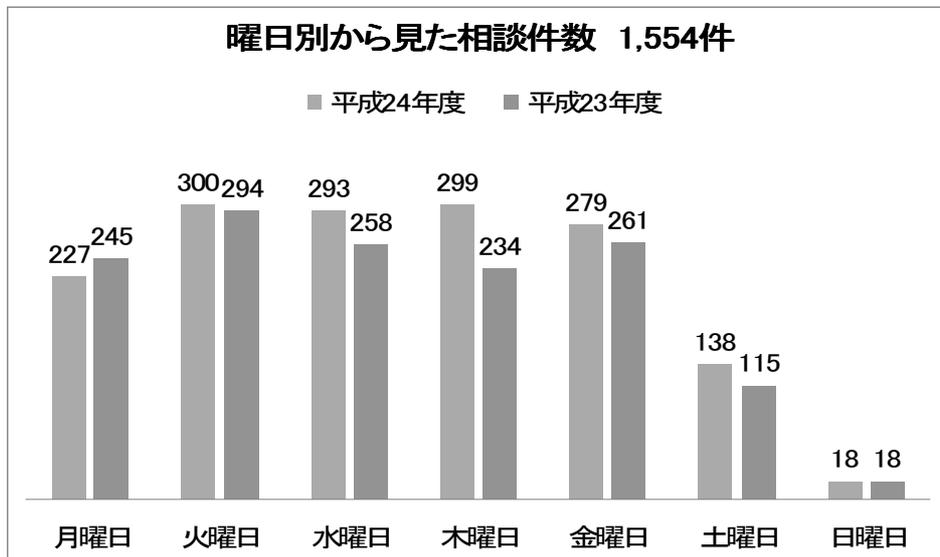


本人分類で見ると、その他分類の件数が団体からの相談を上回った。その他分類では学校や行政、他地区社会福祉協議会からの相談が多い。また、高校生、大学生、勤労者、高齢者からの相談数が増えている。

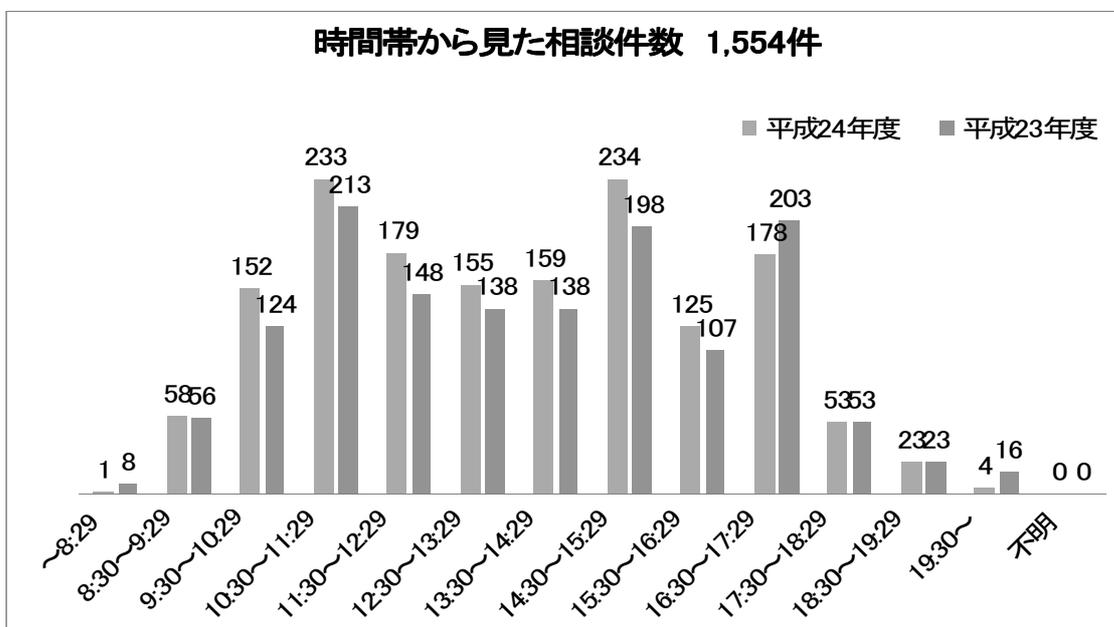


■相談が寄せられる日時の傾向

センター開所日のうち、土曜日の相談件数は昨年度同様に少ない。平日の週半ばの相談が増えている。木曜日の相談が増えてきた。日曜日は、地域イベントなどの機会に受けた相談がほとんどである。



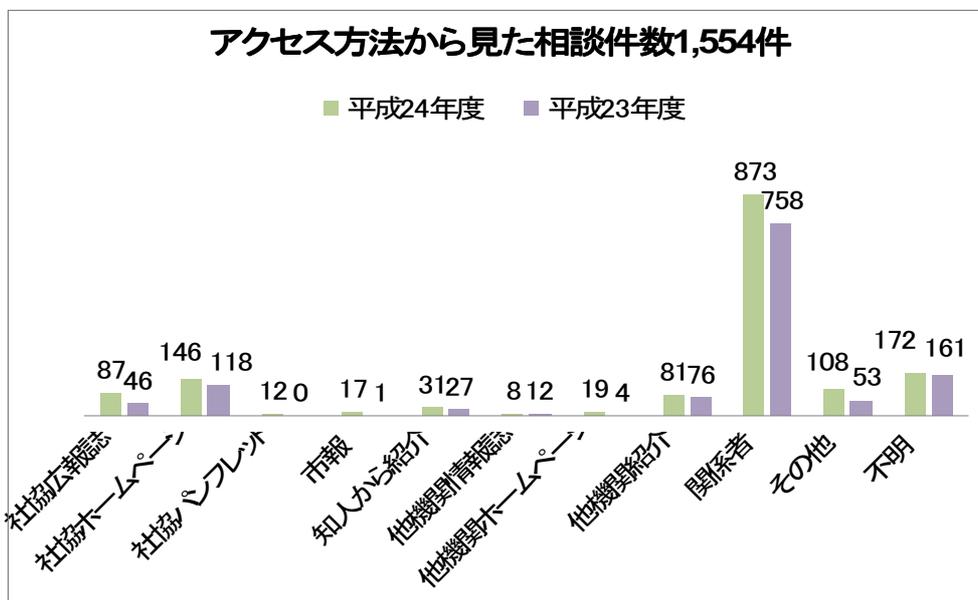
相談が寄せられる時間帯については、10:30～、14:30～の時間帯が昨年度と比べてかなり増えている。



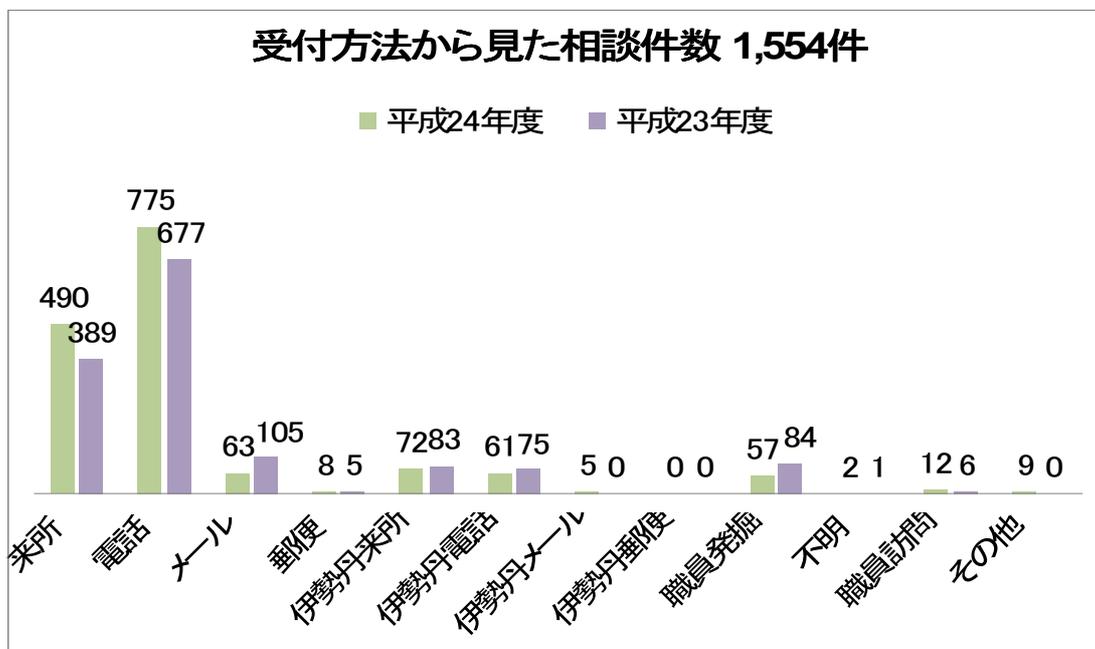
■センターに連絡を入れるきっかけとアクセス方法

ホームページからのアクセスが増加している。また、関係者からの相談も増えており、相談者の多くはリピーターであることが伺える。

なお、「関係者」とは、一度でもセンターを利用したことのある方を含めている。

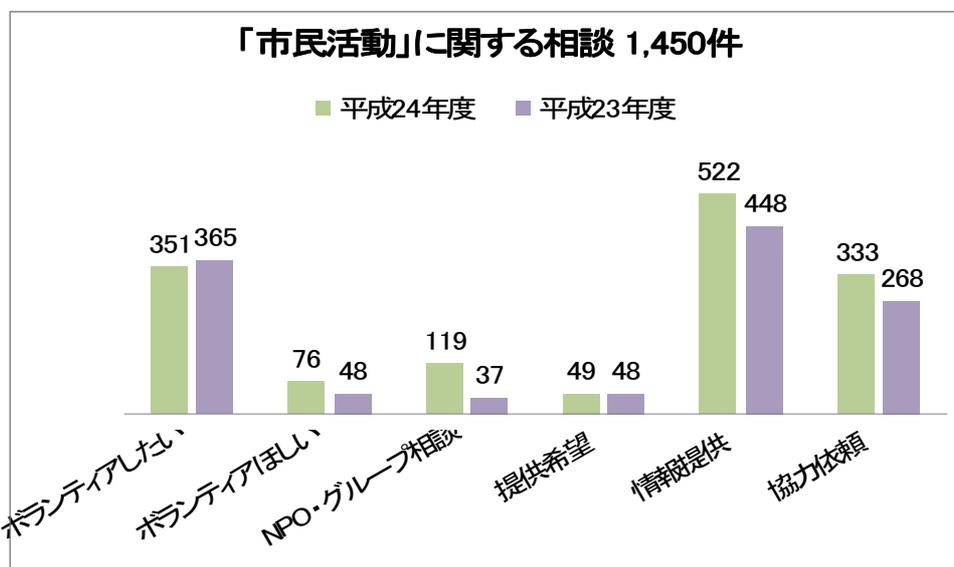


相談の受付方法については、全体比で見ると電話の割合が多くなっている。また、地域に出る機会が増えたため、職員が自ら課題を発見し相談につなげる件数も増えている。



■市民活動に関する相談内容

全体的な相談件数は昨年度(1,214件)と比べて約20%増加している。今年度は、「情報提供」「ボランティアしたい」「協力依頼」という相談が増えている。



「ボランティアしたい」「ボランティアほしい」という相談には、以下のような相談が寄せられている。最初から希望するボランティア活動のイメージを持っていない相談者も多く、その都度、相談者のニーズに合うような活動やボランティアを一緒に探している。最近では、ボランティアから職員への就職手段の一つとして相談に来るケースや、保護観察中の人達に対してのボランティア相談も受付した。

活動分野	ボランティアしたい	ボランティアほしい
保健・医療・福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者介護、見守り等 ・ 傾聴 ・ 障害者支援 ・ 使用済み切手の整理 ・ 清掃活動 ・ 点訳 ・ レクリエーション (歌、麻雀、将棋、囲碁等) ・ 高齢者施設での活動補助 ・ 障害者施設での活動補助 ・ 手話 ・ 被災者向けのマッサージ ・ 避難者支援 ・ 視覚障害者ガイドヘルプ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者施設での活動補助 (日帰り旅行、旅行準備) ・ 高齢者施設での活動補助 (外出支援、陶芸、写真撮影等) ・ レクリエーション (水彩画指導、手品、手芸指導等) ・ 障害者の観劇引率 ・ 視覚障害者へのパソコン指導 ・ 在宅高齢者の庭木剪定 ・ 高齢者旅行介助 ・ アニマルセラピー ・ 病院のイベント支援 ・ 障害者の洋服裁縫

社会教育	<ul style="list-style-type: none"> ・総合学習 ・夏の体験ボランティア 	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者スクーリング時車椅子介助 ・学習会の様子をビデオ撮影する
まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・個人のボランティア登録 ・社会貢献 ・昭和記念公園での活動 ・洋裁、手芸 ・粗大ゴミ出し ・ゴミ出し 	<ul style="list-style-type: none"> ・病院行事の活動補助 ・障害者団体の活動支援
文化・芸術・スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> ・レクリエーション (手品、囲碁、楽器演奏等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント支援 (書道、楽器演奏等)
子ども	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園や児童館での活動 ・楽市案内人 ・学習支援 ・保育、見守り等 ・読み聞かせ活動 ・児童養護施設での活動支援 ・高齢者宅のゴミ出し 	<ul style="list-style-type: none"> ・障害児のリハビリ支援 ・障害児の保育 ・学習支援
国際協力	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人への日本語指導 	
災害救助	<ul style="list-style-type: none"> ・災害ボランティア養成講習 ・被災地支援 	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ちょこボラの登録 ・ボランティア入門講座 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者施設入所者の図書貸出 ・マンションイベントでの紙芝居 ・団地の掃除 ・冷蔵庫整理

また、活動分野から見ると「保健・医療・福祉」と「子ども」の分野が多いのは昨年度同様だが、「まちづくり」の分野が昨年度以上に増えている。このことから地域から寄せられる相談が増えていることが見て取れる。東日本大震災から2年が経過し、災害救助に関する相談は前年の相談件数と比べると、半分に減少している。

(2)「市民活動」以外の相談

「市民活動」に関する相談以外にも、生活などに関する相談も寄せられている。

分野に当てはまらない「その他」の相談が最も多く、どの相談機関を訪ねたらよいかわからない(新たな社会的課題や公的サービスの隙間など)相談が多いことも特徴である。これらのことから、社会状況を反映している生活に関する課題なども増えていると考えられる。市民活動以外の相談の中で、もっとも多い「その他」の分野には以下のような相談がある。

「その他」の相談内容

問合せ	<ul style="list-style-type: none">・ボランティア保険及び行事保険について・市民活動センター実施事業について (部屋の貸出、団体登録、支えあいサロン、ホームページ等)・社会福祉協議会会費について・地域懇談会・支えあいサロン登録申請について
協力依頼	<ul style="list-style-type: none">・市民活動センターの運営について・講演会等の講師依頼について・研究論文作成のための情報提供・講演会の企画、広報の仕方について・学校に商店街の講座のお知らせをしたい・避難者支援について・傾聴講座後のフォローについて・障害者の理解について
情報提供	<ul style="list-style-type: none">・他機関への登録や制度への申請方法について・グループホームの求人情報について・学校編入先相談について・楽市の出店団体案内について・登録団体の問い合わせ先について・餅つき機(杵と臼)の貸出・高齢者の退院後の生活について
その他	<ul style="list-style-type: none">・家族関係の問題相談について・苦情(団体間のトラブルについて、地域での迷惑行為等)

○今まで取り組んできた仕組み作りの例

- ・自治会長のヒアリングから、地域猫で困っているという課題に取り組んだ。地域懇談会を重ね、地域猫の去勢活動に取り組む団体が立ち上がった。現在では、行政から地域猫に取り組む団体に対する補助金制度ができ、市内全域で活動が広がっている。
- ・イベントでの使い捨て食器を減らしたいという相談から、食器の再利用を進める団体が立ち上がり、市内一のイベント、楽市などで行政と共にごみの減量に取り組んでいる。
- ・小中学校に通う障害児の介助をする介助員が見つからないという学校からの相談から、社会福祉法人、NPO法人などのヘルパー事業所と協働して、介助員を配置する制度が出来上がった。

Ⅱ 平成 24 年度地域福祉コーディネーター活動報告

住民と協働して地域づくりを進める「地域福祉コーディネーター」を栄町・若葉町地区に専任で配置して6年、上砂町・一番町・西砂町地区に増配置して3年が経過した。地域内の多様な取り組みに関わりながら、地域課題を地域住民と共に俯瞰し、人と人、活動と活動の結び目をつくるべく活動している。

今後、市内の福祉6圏域全ての地域への配置を目指して住民主体の活動を積み上げていく。

(1) 地域懇談会の開催

市民による課題の発見と共有化をし、さらに解決のための活動づくりを目指して開催している。

《栄町・若葉町地区》

■「わかばの会(認知症の高齢者を支える家族の会)」の開催

平成21年度より、毎月1回定例会を開催している。介護をしている家族同士で日頃の不安や心の疲れを出し合い、情報交換もしている。(参=参加者 V=運営ボランティア) 市民による独立した組織として活動できるように長期的に支援をしたい。

4/9 (参5名・V1名)、5/14 (参7名・V1名)、6/11 (参6名・V1名・包括1名)、8/13 (参4名)、9/10 (参7名・V1名)、10/15 (参6名)、11/12 (参3名・V1名・実習2名)、12/10 (参3名・V1名・包括1名・実習1名)、1/28 (参8名・見学1名)、2/18 (参6名)、3/11 (参5名)

■男性介護者の集い

上記の認知症の高齢者を支える家族の会にも男性介護者は参加しているが、一般的に男性は女性が多い懇談の場に参加しづらく、女性以上に介護を負担に感じながらも一人で抱え込みがちである。そこで、わかば地域包括支援センターと共催で、状態が深刻化しがちな男性のみを対象に、懇談の場を隔月で設けることにした。参加者は近隣市からも来ていて、認知症の方だけでなく、難病の家族を看病している人もいる。参加者数はこの1年で定着してきており、話すことで肩の荷を降ろして帰っていく方も多い。引き続き協働開催をしながら、出された問題から、現行の介護保険制度の課題についても考えていきたい。

○定例会 4/7 (参7名)、6/2 (参8名)、8/4 (参10名)、10/15 (参6名)、12/1 (参7名)、2/2 (参10名)

■障がいのある人もない人も暮らしやすい立川を考える会 地域懇談会

障害のある人が地域から排除されることなく、今以上に社会の構成員としての役割を果たしていけることを目指して、複数の団体と協働で栄町・若葉町地域懇談会として開催している。コーディネーターは会場手配、情報が伝わりにくい該当者への呼びかけなどを行っている。障害のある人もない人も共通の課題は防災であることから、発災時に障害のある方が地域で取り残されることがないように、日ごろから地域と接点をつくるように心がけている。参加者が少なくなってきたことが課題だが、自治会などの防災体制作りとリンクさせてすすめていきたい。

参加者： 地域在住障害当事者、障害関係団体、民生委員・児童委員障害福祉部会、有志の住民

○定例会

- 4/12(木) 今年度の活動計画について 11名
- 6/7(木) 災害時要援護者のリストについて 18名
- 10/17(水) 地域自治会との連携などについて 11名
- 1/16(水) 映画上映会など、地域住民が参加できる企画について 11名
- 3/22(金) 情報交換と来年度の活動計画（映画上映会）について 8名

■若葉町団地自治会・UR 都市機構(住宅管理協会)・民生委員・地域包括支援センター・社協による見守り懇談会(五者懇談会)

団地に暮らす高齢者の孤立死を防ぐために懇談の場を設けて定期開催をしている。前年度購入の階段昇降機の運用研修を通して防災の人材育成を始めている。

また、五者懇談会の中で住民同士の繋がりを広げるためのお食事会が開催されて、ボランティアで食事作りをしていた住民が、周囲の期待に応えてレストランを開業するなどの動きが見られた。本会議の成果としては、UR 管理事務所と包括支援センター、民生委員が連携することで緊急対応が速やかにできるようになった点が大きい。

○若葉町団地見守り懇談会 定例会と主なテーマ

- 5/22(火) 第8回定例会「見守り関係のサービスについて情報交換」11名
- 7/31(火) 第9回定例会「災害時要援護者リストの取り扱いについて」8名
- 10/23(火) 第10回定例会「生活支援アドバイザーの活動と連携について」17名
- 1/22(火) 第11回懇談会「避難所運営委員会との連携について」9名

参加者 若葉町団地自治会、若葉町団地担当民生委員・児童委員、UR 都市機構(住宅管理協会)、わかば地域包括支援センター

■けやき台団地自治会・UR 都市機構(住宅管理協会)・民生委員・地域包括支援センター・社協による見守り懇談会(五者懇談会)

若葉町団地同様に懇談の場を定期開催している。けやき台団地は自主防災組織が結成されており、交流活動を通しての人材発掘、孤立防止、災害時要援護者を団地独自にリスト化するなど活発な取り組みをしている。コーディネーターは各種交流活動の支援（ささえ合いサロンの登録や財源確保の相談）、防災学習会のコーディネートなどを行った。

- 5/28(火) 第6回定例会「お助け隊の結成について」9名
- 7/30(火) 第7回定例会「交流活動の報告と見守りの情報交換」参加者7名
- 10/22(火) 第8回定例会「交流活動の報告と見守りの情報交換」参加者9名
- 1/21(火) 第9回定例会「交流活動の報告と見守りの情報交換」参加者7名

参加者 けやき台団地自治会、若葉町団地担当民生委員・児童委員、UR 都市機構(住宅管理協会)、わかば地域包括支援センター

■江ノ島道東住宅自治会・東京都住宅供給公社・民生委員・地域包括支援センター・社協による見守り懇談会(五者懇談会)

高齢者が多く住む団地で、今まで五者による連携がとれていなかった。孤立死の早期発見や日常

の見守りについて、それぞれのスタンスを確認しあうことができた。頻繁な定例化は難しいので、年度に1回は開催したい。

8/8(水) 第1回定例会 顔合せ・災害時要援護者リスト・見守り活動の情報交換など

《上砂町・一番町・西砂町地区》

■障がいのある人もない人も暮らしやすい立川を考える会 地域懇談会

障害のある人が地域から排除されることなく、今以上に社会の構成員としての役割を果たしていけることを目指して開催している。災害時要援護者支援のあり方を探りながら、「災害時への備え＝日常的なコミュニティへの参加」を当面のテーマとし、障害当事者と地域活動者で共に取り組みを継続させていく。

参加者： 地域在住障害当事者、障害関係団体(たつのこ、手をつなぐ親の会、すみれ会、幹福祉会)、民生委員・児童委員障害福祉部会、立川市災害ボランティアネット、西砂・一番市民活動ネットワーク、グッドネイバー西砂一番、市議会議員

○定例会

- 4/12(木) 第15回地域懇談会 天王橋界限で防災まち歩きを試行 25名
- 5/31(木) 第16回地域懇談会 上砂町2-3丁目防災まち歩き準備 14名
- 7/3(火) 第17回地域懇談会 上砂町2-3丁目防災まち歩き準備 14名
- 8/17(金) 第18回地域懇談会 上砂町2-3丁目防災まち歩き準備 12名
- 9/27(木) 第19回地域懇談会 上砂町2-3丁目防災まち歩き準備 12名
- 10/6(土) 上砂町2-3丁目防災まち歩き 参加者31名
- 11/14(水) 第20回地域懇談会 まち歩きふりかえりと今後の活動について 11名
- 1/31(水) 第21回地域懇談会 今後の活動について 13名

○地域活動参加

- 10/28(日) 自治会連合会西砂支部地域防災訓練に参加 2名

■松中団地孤立防止懇談会

高齢化と団地建替えに伴うコミュニティ崩壊を防ぐために、自治会、民生委員、かみすな地域包括支援センターと共に開催。個別ケースの支援や号棟ごとの見守り体制づくり、集会所を使った定期的なサロン開催、学習会開催など継続的な協働体制が定着した。自治会が役員だけではなく、団地内のちょっとボランティアや自衛消防隊と共に活動を展開するなど、住民自治の輪も広がっている。

- 5/11(金) 団地評議員会で見守り・防災活動の提案 35名
- 5/21(月) 号棟ごとの安否確認シミュレーション打合せ 6名
- 5/30(水) 集会所を利用した第1回茶話会実施 45名
次回から住民主体で月1回実施が決定
- 6/1(金) 号棟ごとの安否確認シミュレーション打合せ 2名
- 6/6(水) 婦人部主催の防災頭巾づくり講座 25名
- 6/10(日) 3つの号棟で安否確認シミュレーション実施

8/24(金) 懇談会「安否確認シミュレーションの今後の進め方」21名

1/29(火) サークルさくら主催「高齢者の食」学習会実施(包括スタッフ講師) 50名

■西砂自治会役員会(孤立防止について)

災害時要援護者支援や日頃からの住民同士の見守りについて、現状と課題、地域活動の可能性についての情報交換を行った。

4/25(水) 「地域内見守りについて」 9名

■希望ヶ丘自治会班長会(災害時安否確認シミュレーションと孤立防止について)

10/28 に実施された自治連西砂支部防災訓練参加にあたって、住民相互で声をかけ合い自治会内公園に集合してから避難所へ向かうという訓練を実施することを協議した。

9/29(土) 「ご近所安否確認・要援護者支援訓練について」 12名

■天王橋自治会役員懇談会(孤立防止について)

130世帯の世帯主の平均年齢が72歳という本自治会では、前年度秋より自治会集会所を使った茶話会がスタートした。テーマを変えた学習会や日常からの見守り合いを意識した安否確認シミュレーションも実施に至った。自治会・民生委員・かみすな地域包括支援センターによる個別住民支援の連携体制も定着した。

6/1(金) 「介護学習会・自治会防災訓練について」 5名

7/8(日) かみすな地域包括支援センターによる介護サービス学習会 32名

9/7(金) 「自治会防災訓練・学習会について」 4名

9/30(日) 防災訓練安否確認シミュレーション実施 117名

立川市災害ボランティアネットによる防災学習会 43名

12/9(日) かみすな地域包括支援センターによる認知症学習会 32名

■一番組自治会地域防災懇談会

自治会、民生委員、明倫長寿会、防災課と五者で各機関の顔合わせと、災害時要援護者リストの提出状況や課題について懇談した。次年度には自治連砂川支部の防災モデル事業が始まるので、一連の取り組みに協働していきたい。

2/23(土) 「災害時要援護者の支援について」 19名

《2 地区合同》

■子育て支援懇談会

子ども支援ネットワーク会議に参画したり、地域から子どもや子育ての相談を受ける中で、既存の制度・サービスでは不十分であったり、同じ市民だからこそ関われる領域があるのではないかと、という場面に遭遇してきた。

日頃は別々に子育て支援に関わるボランティアや市民グループの人で集いながら情報交換や学習会を実施した。今後は地域密着型支援を試行する予定である。

- 6/12(火) 「子どもや子育て支援の現状と課題の共有」 4名
- 7/28(土) 清瀬市子育て支援グループピッコロを招いての学習会 20名
- 8/25(土) 学習会を踏まえての課題共有 9名
- 10/20(土) 子ども家庭支援センター職員との懇談 13名
- 1/19(土) 「今後の活動について」 8名
- 3/23(土) 情報交換と今後の活動について 10名

(2) 交流の場づくり

《栄町・若葉町地区》

■男性のための料理教室(栄地区)

平成21年度から継続している事業。栄町地区グッドネイバーをすすめる会、立川介護老人保健施設わかばの栄養士、わかば地域包括支援センターの協働で毎月1回開催し、15名前後の方が参加している。わかば地域包括支援センターが関わった方に参加を促すなどし、閉じこもりがちだった方の社会参加に繋がっている。

■男の料理教室(若葉町地区)

立川健康生活ネットワーク、わかば地域包括支援センターと協働で毎月開催し、毎回15名前後の方が参加している。栄町と同様、定年退職後の男性や地域との繋がりがあまりなかった方や虚弱な方も参加できる貴重な場となっている。

■住民のつながりづくり

①自治会立ち上げ支援

隣近所の付き合いが希薄で、自治会加入率も低下している地域が多い。地域の間関係が豊かであることが、地域の防災力や情緒的安定、介護予防を高めることに繋がる。関心のある住民がいる地域があれば、自治会立ち上げの支援につなげるようにしている。

○若葉の杜自治会

お茶会 5/7(月) 17世帯、世話人打ち合わせ 5/11(金) 4名、
自治会立ち上げ準備会 5/27(日) 17世帯、世話人打ち合わせ 6/8(金) 4名、6/29(金) 4名、
7/3(火) 8名、7/27(金) 2名 自治会結成総会 7/28(土) 30名

○ひまわり会自治会(若葉町3-23地区)

世話人打ち合わせ 6/3(日) 2名、7/14(土) 2名、9/10(金) 2名
自治会結成総会 9/15(土) 19名

②若葉町団地・食事会

五者懇談会の中で、団地に比較的最近転入した人が知り合いを増やすための食事会を開催してはどうかという提案が出され、定期開催を始めた。コーディネーターと包括職員どちらかが出席できるようにしてきた。準備・調理はボランティアグループである「えんがわの会」の協力が得られた。(参加者数は住民、自治会役員、民生委員・児童委員、えんがわの会スタッフを加えた人数。)

5/22(火) 参加者20名、7/25(水) 参加者17名

③血液循環体操

虚弱な人でも参加できる体操教室を増やす目的で開催。4回の連続講座で、終了後に自主グループ化を図ったが、参加希望者の希望日が合わないことで成果に繋がっていない。体操教室のバリエーションを増やしたいので、再度調整して募集をしたい。

日 時 平成25年1月11日、18日、25日、2月1日 すべて(金)

場 所 幸学習館 参加者12名

講 師 竹内恵津子氏

④その他

4/9(月) 東栄長寿会 「体操教室の開催について」参加者8名

6/20(木) ウィスタリアマンション「交流の場づくりについて」2名

■社協支え合いサロン立ち上げ支援

高齢者サロン/けやき台ものづくりの会 けやき台歌とおしゃべりの会、けやき台生き生き健康
体操教室、カフェエのしま

子育てサロン/らびどらの会 ラビッツ ちびTATSU 合計7グループ

《上砂町・一番町・西砂町地区》

■障害児の親御さん向け茶話会「ホッとひとときカフェ」

当事者団体にもつながっておらず孤立しがちな障害児のいる家庭が、同じ立場にある地域住民とつながれる機会をつくるために開催。立川市手をつなぐ親の会と立川市肢体不自由児者父母の会たつこのことの三者共催とし、「こういう集まりに参加するのは初めて」という親御さんを、すでに経験を踏んできた当事者親団体の会員がサポートする機会にもなっている。

開催準備会>10/25(木)4名

茶話会実施>12/19(水)11名、1/22(火)11名、2/19(火)11名、3/12(火)7名

■住民のつながりづくり(茶話会立ち上げ)

孤立防止を目的にした、住民主体の居場所づくりや支え合いサロンになることを目指して立ち上げを応援。最初の数回は、かみすな地域包括支援センターとコーディネーターで世話人を募り、会場確保。世話人は自治会関係者、民生委員、地域活動グループメンバーなどに声をかけ、さらに協力者を紹介して頂く方法を取った。お誘いチラシは地域の方による手配りとしている。試行実施後、住民による実施へ移行中。「ご近所と顔見知りになる」「民生委員がひとりで気にかけていた方を複数で気にかけてくれる」「地域包括支援センターがつなぐ場所に苦慮していた方の受け皿」の機会にもなっている。開催グループ同士が相互に活動を見学し合い、意見交換する動きも見受けられる。

①天王橋自治会界限

天王橋自治会館を会場に、自治会役員と地区担当民生委員が中心となり23年11月より開催。天王橋自治会とその周辺住民が参加している。7月以降は隔月での自主継続開催となった。

開催>4/24(火)15名、6/19(火)11名

②大山団地界限

広報を見て「開催希望」のご連絡を頂いた方や民生委員が中心となり 23 年 12 月から月 1 回開催してきた。団地外の住民、建替えに伴い松中団地から移転してきた方、在日外国人、震災避難者なども合流している。6 月以降は月 1 回の自主継続開催となった。

開催>4/19(木)15 名、5/17(木)12 名

③レクセルガーデン武蔵砂川交流室

自治会役員を中心に「震災後、住民のつながりづくりの必要性を実感」とマンション内交流室で開催した。

開催準備会>6/2(土)5 名、9/2(日)7 名

開催>11/11(日)15 名 クリスマスリースづくり 協力:ハーブを楽しむ会「ローズマリー」

④一番町東団地集会所

孤立防止や災害時の住民のつながりづくりのための懇談会を契機に、有志住民と民生委員が中心となり 24 年 3 月より開催。24 年 4 月からは支え合いサロンとして月 1 回の自主開催。

開催準備会>4/2(月)4 名

⑤上砂町 5 丁目界限

マンションが多いが、会館や自治会集会所がない地域。砂川 8 丁目にある子どもを対象とした活動をしている NPO 法人の拠点を使って砂川町圏域の住民も交えて試行開催したが、世話人の引き受け手がおらず、現在は活動停止。

開催準備会>4/11(水)7 名

開催>5/25(金)27 名、6/21(木)6 名、7/12(木)8 名、9/6(木)16 名、10/4(木)8 名

⑥松中団地集会所

孤立防止や災害時の住民のつながりづくりのための懇談会を契機に、自治会と民生委員が中心となり 24 年 3 月から開催準備。6 月以降は月 1 回の自主継続開催となった

開催>5/30(水)45 名

⑦一番町 1 丁目界限

天王橋自治会館を会場にした茶話会が先行していたが、自治会以外の住民が参加しやすい場がもうひとつ欲しいという声を受けて天王橋会館を会場に開催。10 月以降は月 1 回の自主開催となった。

開催準備会>4/17(火)5 名

開催>5/30(水)18 名、6/26(火)16 名、7/24(火)19 名、8/21(火)15 名、9/25(火)20 名

⑧ハイホーム立川一番町

23 年秋に転入してきた車イスユーザー住民の「ご近所と知り合うきっかけが欲しい」という声

を受け、マンション集会室を利用したヨガプログラムを開催。2回の開催支援後、参加住民から車イスユーザー住民をサポートしながらの継続開催希望の声が挙がり月1回の自主開催となった。

開催準備会>4/10(火)1名、4/17(火)1名、6/13(水)1名、6/29(金)2名

開催>7/14(土)10名、9/1(土)5名

⑨殿ヶ谷組自治会

自治会役員を中心に「自治会会員以外も参加できる孤立防止活動がしたい」とスタート。24年9月以降、支え合いサロンとして月1回の継続自主開催となった。

開催準備会>6/14(木)2名

開催>9/25(火)12名

■支え合いサロン立ち上げ支援

ふれあい喫茶、ひまわり仲良し会、けやき茶屋、こてまり（計4グループ）

(3)調査・広報活動

《栄町・若葉町地区》

■地域広報紙「まちなつ」の発行

栄町、若葉町を対象に4回（5月、10月、12月、2月）、約11,000部を各戸配布した。わかば地域包括支援センターと協働で作成しており、介護の記事を読んだの相談も増えている。また企画したイベントも本紙を見ての参加が多くなってきた。

《上砂町・一番町・西砂町地区》

■地域広報紙「まちなつ～上砂町・一番町・西砂町」の発行

かみすな地域包括支援センターと協働で7月・10月・12月・2月に約13,500部を各戸配布した。公共施設、相談センター、郵便局、病院、商店にも設置協力をいただいた。コーディネーター担当誌面については、住民による地域活動情報の媒体となることを目的としたが、掲載団体からは「住民から好反応。参加者が広がった」と報告を頂いている。

■都営松中団地建替えに伴う移転者への生活ニーズ調査

松中団地自治会、民生委員、かみすな地域包括支援センターと協働で、移転予定者に困りごとのアンケート調査を実施。回答に対して四者で手分けして個別対応。必要に応じて、都住宅局や引っ越し業者との協議の機会を持った。

(4)その他

《栄町・若葉町地区》

■講演会・学習会

①北部東わかば地域包括支援センター活動報告会

高齢者支援や介護予防活動を自治会や老人会と連携して取り組んだ活動事例を参加者にも発表し

てもらい、包括支援センターの機能、地域福祉コーディネーターの機能について知ってもらう報告会を開催した。

- ・平成 23 年度活動報告会

日 時 平成 24 年 6 月 22 日 (金)

場 所 さかえ会館 参加者 32 名

- ・平成 24 年度活動報告会 (栄町)

日 時 平成 25 年 2 月 13 日 (水) / 場 所 さかえ会館 / 参加者 18 名

- ・平成 24 年度活動報告会 (若葉町)

日 時 平成 25 年 2 月 15 日 (金) / 場 所 若葉会館 / 参加者 23 名

②子育て支援学習会「子育て支援団体ピッコロの先駆的な取組みから学ぶ」

2 地区合同で開催している「子育て支援懇談会」の一環で、普段子育て支援に携わっている団体スタッフやボランティア団体の活動者を対象に学習会を開催した。行政のサービスと活動団体のサービスの役割や特徴の違いについて、またどこまで市民が深めていけるのか、参加者とイメージを共有できる良い機会になった。

日 時 平成 24 年 7 月 28 日 (土)

場 所 幸学習館

講 師 NPO 法人子育てネットワークピッコロ 代表 小俣みどり氏

参加者 20 名

③学習会「病院のしくみについて学びましょう」(包括と共催)

高齢者の中には、突然の入退院の時にどうしたらよいか、という不安を持っている方が多い。特に一人暮らしの方などを対象に、日頃からどんな準備をしたら良いかについて分かりやすく学習する機会を設けた。

日 時 平成 24 年 11 月 26 日 (月) (若葉地区 13 時半～、栄地区 15 時～)

場 所 若葉会館 さかえ会館

講 師 わかば地域包括支援センター職員 市内病院相談員

参加者 若葉地区 20 名 栄地区 9 名

④学習会「老人ホームの料金はいくらかかる？」(包括と共催)

介護が必要となった時にどういうところで暮らすか、というのはひとり暮らし高齢者が増えていることもあり、とても強い関心が寄せられる。実際の施設からの請求書を元に、基本的な内容をお伝えする講座で、定番になっている。

日 時 平成 24 年 12 月 12 日 (水) 栄地区 10 時～ 若葉地区 13 時半～

場 所 さかえ会館 若葉会館

講 師 わかば地域包括支援センター職員 みんない職員 (有料老人ホーム紹介機関)

参加者 栄地区 33 名 若葉地区 42 名

⑤学習会「認知症の理解と対応」

常に関心の高い内容なので、色々な講師に依頼をしている。今回は著名な講師ということもあり、駅に近い会場で市内全域を対象に広報をした。総括的な内容で好評だった。

日 時 平成 24 年 11 月 19 日 (月)

場 所 女性総合センターAIM

講 師 杉山孝博医師

参加者 51名

■地域団体との協働事業

①けやき台団地自主防災組織との共催による学習会

8/20（月）「小さい子どもがいる家庭むけ防災講座」参加者3名

10/14（日）「ほのぼの灯づくり」参加者8名

（両企画とも立川市災害ボランティアネットが講師として協力）

②映画会「季節めぐり、それぞれの居場所」上映会

グッドネイバー若葉、包括支援センターと協働開催した。前年度好評だった映画の続編。介護のあり方やどんな介護を受けたいかなどを一緒に考える機会にした。終了後に包括支援センターの紹介などもした。身近な会館で観られることもあり、好評だった。

日 時 平成24年10月19日（金）

場 所 若葉会館

参加者 50名

③学習会「地域あんしんセンターの活動」

判断能力がなくなった時の生活の判断を誰に任せるのか、また亡くなったときに家族が慌てないためにどんな準備をしておくべきか、などの疑問や不安に答える講座。グッドネイバー若葉と共催。

日 時 平成24年11月9日（金）

場 所 十番組自治会集会所

講 師 地域あんしんセンター職員

参加者 51名

④パンプキン（子育てサロン）との学習会

日 時 平成24年4月25日（水） 参加者6名

内 容 「防災頭巾づくり」

場 所 幸学習館 講師：立川市災害ボランティアネット

⑤弁天北自治会での防災学習会

日 時 平成24年6月16日（土） 参加者9名

内 容 「立川市での災害にどう備えるか」 講師：立川市災害ボランティアネット

場 所 栄町5丁目アパート自治会集会室

■課題解決のためのしくみづくり

①ママビクス&ベビーマッサージの開催

幸学習館運営協議会に本センター職員として参画し、子育て向けの企画を提案してきた。この企画は3年前からの定番事業となり今年度は5月から8月にかけて、6回の連続講座を開催した。生後6ヶ月までの乳児を持つお母さん15組を対象として開催し、毎回盛況である。当初、虐待防止などの効果も期待したが、こういう講座に参加する人は自ら交流と情報交換の場を探せる方々なので、

直接の効果には結びついていない。

成果としては、サロンの立上げに結びついて地域の居場所作りが広がったこと、その参加者が人材となって防災の学習会に結びつくなど、地域活動の広がりにも貢献してもらっていることが上げられる。仲間作りをしたい、という要望には今後も最大限応えていきたい。

②見守り保育ボランティアとの連携

子育てサロンの世話人から、活動中に見守り保育をして下さるボランティアを紹介して欲しいという要望を頂き、「まちねっと」で募集したところ5名の方が応えて下さった。子育てサークルとお引き合わせをし、今後も無理なく活動を続けてもらうことになった。多世代交流にもなり、子育て中の方向けの講座でも多くの親子に参加してもらうきっかけになると思われる。今後も緩やかに続けていきたいと思う。

③緑ヶ丘ハイツ自治会での「飼い主のいない猫」問題について

飼い主のいない猫が自治会に増えたので自治会でどのように解決したらよいかというご相談を受けた。立川市環境対策課と一緒に伺い、「地域猫活動団体」として登録してもらうことになり、問題が大きく改善した。今後は問題が発生しているお宅に関わる専門職とも連携がとれるように支援を続ける。

④若葉町での避難所運営委員会立ち上げについて

若葉町で避難所運営組織が立ち上がっておらず、その立上げを支部に提案し、協働で立上げの支援を行った。そのことで、障害当事者や高齢者が発災時に取り残されないよう、また各自治会での災害対応と連動することが出来るようになることを目的としている。

- 4/17 防災訓練打ち合わせ
- 4/22 防災訓練打ち合わせ
- 6/30 避難所運営組織説明
- 8/11 避難所運営組織準備会
- 8/15 避難所運営組織準備会 防災課に講師依頼
- 10/23 避難所運営委員会立上げ学習会
- 12/8 第九中学校避難所運営委員会
- 12/13 若葉小学校避難所運営委員会立上げ
- 12/15 けやき台小学校避難所運営委員会
- 2/9 けやき台小学校避難所運営委員会
- 3/30 けやき台小学校避難所運営委員会

《上砂町・一番町・西砂町地区》

■講演会・学習会

①子育て支援学習会

4 地区と合同開催。内容は前述の通り

②若者支援講演会「もしかしてひきこもり!？」

教育機関や職業など社会的つながりが途絶えている若者(40歳未満)とその家族の孤立防止のために、住民が発見・誘導・支援へのつながりが出来るようになることを目指して開催。講演会前後に

7 組の個別相談が寄せられ、たちかわ若者サポートステーションや多摩立川保健所と協働しての個別支援に至った。

日 時 平成 24 年 12 月 15 日(土)
会 場 西砂学習館
講 師 井村良英氏・山本佳奈氏(たちかわ若者サポートステーション)
参加者 17 名

③茶話会・サロン活動世話人のための「手作り教室」

茶話会やサロン開催時におしゃべりをしながら取り組めるプログラムアイデアを共有することと、同一圏域内の世話人さん同士の交流を目的に開催した。

日 時 平成 25 年 3 月 12 日(火)
会 場 西砂学習館
講 師 森あけみ氏
参加者 17 名

■地域団体との協働事業

①天王橋自治会との学習会

住民の高齢化と孤立化への危惧から、定例開催の茶話会や自治会防災訓練・安否確認シミュレーションと並行させながら各種学習会を開催した。自治会、民生委員、地域包括支援センター、地域福祉コーディネーターの関係性が深まり、日常的に個別相談が入ることも定着してきている。

日時と内容

平成 24 年 7 月 8 日(日) 介護サービス学習会
講師:かみすな地域包括支援センター職員
平成 24 年 9 月 30 日(日) 防災学習会
講師:立川市災害ボランティアネット
池永一夫氏・矢野和孝氏
平成 24 年 12 月 9 日(日) 認知症学習会
講師:かみすな地域包括支援センター職員

会 場 天王橋会館

②地域福祉学習会「終の住処の選び方」

参加者が住まい方を考えると同時に、地域包括支援センターの気軽な活用にもつながっていくことを目的に、グッドネイバー西砂一番及びかみすな地域包括支援センターと共催で実施した。

日 時 平成 25 年 1 月 30 日(水)
会 場 西砂学習館
講 師 民間介護施設紹介センター 岩崎文香氏
参加者 32 名

③上砂川小学校 PTA 防災学習会

「子どものいる家庭での災害への備え」をテーマに開催した。

日 時 平成 25 年 2 月 2 日 (土)

会 場 上砂川小学校

講 師 立川市災害ボランティアネット 新井明子氏

参加者 50 名

■課題解決のためのしくみづくり

○災害時要援護者を地域で支えるしくみづくり

平成 23 年 3 月 11 日の震災を受けて、災害時に近隣住民同士が助け合えるための取り組みが急務となった。特に高齢者や障害者、子ども、外国人など災害時において普段以上にサポートが必要となる人たちを支えるしくみづくりを広げていくこととなった。

災害時を想定しての取り組みは、日常での孤立防止にもつながるという視点で引き続き、多様な機会を捉えて臨んでいく。

・自治会連合会との連携

7/11(水)自治連西砂支部避難所運営委員会

7/25(水)自治連西砂支部長、6 地区民生児童委員協議会会長、かみすな地域包括支援センターと四者で要援護者支援打合せ

7/29(日)自治連西砂支部防災訓練実行委員会

8/19(日)自治連西砂支部防災訓練実行委員会

9/29(土)希望ヶ丘自治会班長会で安否確認シミュレーション・災害時要援護者支援訓練打合せ

10/20(土)自治連西砂支部防災訓練実行委員会

10/28(日)自治連西砂支部防災訓練で希望ヶ丘自治会・殿ヶ谷組自治会で災害時要援護者支援訓練

・松中団地自治会との取り組み

5/21(月)・6/6(水)住民相互の安否確認シミュレーション打合せ

6/6(水)婦人部主催の防災頭巾づくり講座(立川市災害ボランティアネット協力)

6/10(日)安否確認シミュレーション実施

・天王橋自治会との取り組み

9/7(金)住民相互の安否確認シミュレーション・防災学習会打合せ

9/30(日)住民相互の安否確認シミュレーション・防災学習会実施

・エステート一番町管理組合との取り組み

12/2(日)号棟ごとの安否確認シミュレーション実施

・障がいのある人もない人も暮らしやすい立川を考える会 地域懇談会の継続開催 前述の通り

(5) 寄せられる相談とコーディネーター活動について

制度やサービスの狭間にあること、担当窓口がはっきりと構築されていないもの、異分野・異業種をつなぐ必要があるもの、住民の自治力の発揮が必要とされるものが、コーディネーターに寄せられる相談の特徴である。

狭義の福祉領域や既存のシステムにとらわれず、住民と生活課題を主体にしながら進めている。

ひとつの相談から地域活動の創出が出来ること、共に取り組むパートナーが「個」「グループ」「専門機関」「当事者」「営利」「非営利」など、多彩であることが大きな強みである。

また、両地区とも地域包括支援センターに机を置いて協働しているのも大きな特徴である。協働内容は高齢者の介護予防的な取組みだけでなく、高齢者の家庭で子どもの問題や引きこもりの問題があれば適切な窓口を探したり、防災の取組みでは災害時要援護者への対応と位置づけて自治会活動への支援や介護保険事業者とのネットワークづくりを試みるなど、多くの点でそれぞれの資源と情報を持ち寄って協働している。

※相談件数の数え方は、1つの相談を1件とせず、1つの相談がある程度終了するまで時間をとって活動した回数としている。例えば1つの相談に関連して3回の訪問やコーディネートをした場合は3件となる。

《栄町・若葉町地区》

	活動件数	連絡調整（件） ※各種団体の定例会出席、団体間やボランティアの引き合わせ等	普及啓発（件） ※地域福祉市民活動計画やコーディネーターの説明、介護予防、サロン普及啓発等	調査研究（件） ※自治会長や関係機関へのヒアリング、団体活動訪問、情報収集等
4月	63	28	1	3
5月	94	41	12	2
6月	66	36	1	2
7月	85	48	9	5
8月	67	35	3	2
9月	45	28	4	0
10月	70	37	3	2
11月	65	47	5	1
12月	56	18	7	2
1月	71	41	4	0
2月	75	38	1	5
3月	71	44	5	2
合計	828	441	55	26

	各種相談（件）										月合計
	見守り/介護	生計	住居	虐待	家事	市民学習	子ども	ボランティア	その他	災害関係	
4月	7	1	0	0	0	0	1	3	24	0	36
5月	12	1	0	2	0	3	0	6	25	2	49
6月	5	0	0	0	0	0	1	7	25	0	38
7月	11	0	0	0	0	0	11	4	40	3	66
8月	8	1	2	0	0	0	8	8	28	0	55
9月	7	1	0	0	0	0	0	6	23	0	37
10月	4	0	2	0	0	0	2	4	32	0	44
11月	4	0	2	0	0	0	1	7	21	0	35
12月	3	0	0	0	0	0	0	5	15	2	23
1月	9	2	0	0	0	1	2	6	21	0	41
2月	4	0	0	0	0	0	1	7	19	0	31
3月	8	2	0	0	2	1	2	8	21	3	44
合計	82	8	6	2	2	5	29	71	294	10	509

《上砂町・一番町・西砂町地区》

	活動件数	連絡調整（件） ※各種団体の定例会出席、団体間やボランティアの引き合わせ等	普及啓発（件） ※地域福祉市民活動計画やコーディネーターの説明、介護予防、サロン普及啓発等	調査研究（件） ※自治会長や関係機関へのヒアリング、団体活動訪問、情報収集等
4月	85	32	8	11
5月	93	39	5	10
6月	112	26	13	21
7月	86	40	10	8
8月	86	29	8	9
9月	73	36	5	5
10月	85	37	4	7
11月	83	32	28	19
12月	69	30	5	6
1月	65	26	10	8
2月	79	40	4	13
3月	90	33	7	13
合計	1006	400	107	125

	各種相談（件）										月合計
	見守り/介護	生計	住居	虐待	家事	市民学習	子ども	ボランティア	その他	災害関係	
4月	4	0	1	1	2	1	0	1	27	8	45
5月	5	0	0	0	1	2	0	1	24	12	45
6月	13	1	0	0	1	1	2	0	26	12	56
7月	4	0	1	0	1	0	2	0	19	6	33
8月	2	1	0	0	0	0	1	4	32	4	44
9月	3	0	0	0	1	1	1	1	26	2	35
10月	9	0	0	0	0	1	1	0	26	4	41
11月	8	1	0	1	0	0	4	2	11	2	29
12月	5	0	1	0	0	0	11	2	26	6	51
1月	3	1	0	0	0	0	8	2	22	0	36
2月	7	1	2	0	0	0	11	2	26	3	50
3月	6	0	2	0	0	2	4	4	31	7	56
合計	69	5	5	2	6	8	45	19	296	66	521

Ⅲ. 4つの活動の柱

「運営委員会」 市民参画によるセンター運営

「協働の推進」「市民力と連携のまちづくり」を前進させる

「地域づくり」 地域の課題を地域で解決するしくみづくり

「市民活動支援」 人と人々が参加し、つながりあう豊かな社会を

1. 市民参画の運営委員会によるセンター運営

(1) 運営委員会

市民によるセンター運営を進めていくため、センターのあるべき姿を探求しながら、事業の企画・推進・評価を市民による運営委員会で行った。また、3つの専門委員会である「課題解決実行委員会」「団体支援委員会」「事業推進委員会」でも、委員会自身が具体的実践活動を展開しながら「市民活動とは何か」を捉えなおし、豊かにし続ける場となっている。

■運営委員

19名 (氏名／選出時区分)

運営委員長	宮本直樹／社会福祉協議会理事
副委員長	岩間直人／ボランティア団体
	井村良英／特定非営利活動法人団体
	石原康博／特定非営利活動法人団体
	海老塚香／特定非営利活動法人団体
	小川和美／関係行政機関
	江夏馨／ボランティア団体
	大村洋永／学識経験者
	菊池寛樹／企業
	北澤明／ボランティア団体
	酒井克哲／企業
	佐藤達夫／市民
	芝田達矢／立川商工会議所
	島崎京子／ボランティア団体
	豊泉裕／市民
	廣瀬麻美／特定非営利活動法人団体
	森下公明／民生委員
	山尾桂子／市民

○運営委員会 開催回数：4回

- ① 5/31(木) 平成23年度事業報告案・委員研修について
- ② 11/15(木) 平成24年度上半期事業報告について
- ③ 1/17(木) 団体登録制度について
- ④ 3/26(火) 平成25年度事業案内について
平成25年事業計画(案)について

○課題解決実行委員会 開催回数:4回

センター開設から積み上げてきた相談や事業実績を分析し、解決すべきことは実行する。

- ① 6/14(木) 市民活動センターに寄せられる相談について
- ② 9/4(火) 相談の分析、課題の抽出について
- ③ 12/19(水) データベースの有り方について
- ④ 2/20(水) データベースの運用について

○団体支援委員会 開催回数:10回

助成事業や市民活動団体向けの講座企画・実施など多様な団体支援の手法について検討を行なう。

- ① 4/5(木) 平成23年度市民活動センターたちかわ助成金報告
- ② 5/24(木) 支え合いサロン登録・団体登録について
- ③ 6/22(金) 市民活動センターの登録制度について
- ④ 7/26(木) 団体登録制度の見直しについて
- ⑤ 9/14(金) 団体登録制度の見直しについて
- ⑥ 10/31(水) 団体登録制度の見直しについて
平成25年度市民活動助成について
- ⑦ 11/29(木) 市民活動センターが応援したい団体について
セルフチェックシートの作成について
- ⑧ 12/27(木) 市民活動センターが応援したい団体について
- ⑨ 1/24(木) 団体登録制度の見直しについて
- ⑦ 2/28(木) 団体登録制度の見直しについて
- ⑧ 3/11(月) 平成25年度市民活動助成 審査会
- ⑨ 3/13(水) 平成25年度市民活動助成 審査会
- ⑩ 3/25(月) 団体登録できる法人各について

○事業推進委員会 開催回数:9回

おもしろボランティア大学や市民活動団体との協働企画などを検討、実施した。

- ① 4/10(火) 第31回おもしろボランティア大学「楽市案内人ボランティア」について
第32回おもしろボランティア大学について
- ② 5/25(金) 第31回おもしろボランティア大学「楽市案内人ボランティア」振り返り
第32回おもしろボランティア大学について
- ③ 6/27(水) 第32回おもしろボランティア大学「支えあいサロン講座」について
秋の楽市案内人について
- ④ 8/27(月) 第32回おもしろボランティア大学「支えあいサロン講座」振り返り
秋の楽市案内人について
第33回おもしろボランティア大学について
- ⑤ 9/20(木) 秋の楽市案内人ボランティアについて
第33回おもしろボランティア大学について
- ⑥ 11/28(水) 秋の楽市案内人ボランティア振り返り
第33回おもしろボランティア大学「団地のシンポジウム」について
- ⑦ 1/25(金) 第33回おもしろボランティア大学「団地のシンポジウム」について
春の楽市案内人ボランティアについて
- ⑧ 2/27(水) 第33回おもしろボランティア大学シンポジウムについて
春の楽市案内人ボランティアについて
- ⑨ 3/27(水) 第34回おもしろボランティア大学について
春の楽市案内人ボランティアについて

2. 協働の推進

(1) 市民と行政との協働の推進

■新しい公共の場づくりのためのモデル事業への参画

立川市、立川市自治会連合会、NPOとの協働モデル事業に参画して広報の協力などを行ったほか、旧庁舎活用のためのワークショップにも参加して協働の仕組みづくりを推進しました。

- ・ 広報の発行協力／3回
- ・ 会議等／6回

■たまがわ・みらいパーク企画運営委員会への支援

平成16年4月に廃校となった旧立川市立多摩川小学校について、市民の声を反映した跡地の活用方法の実現を目的に市民委員会が発足し、提言を平成18年1月に市長へ提出した。

平成18年4月からは旧立川市立多摩川小学校運営協議会が発足。センターは、基本コンセプトの具現化や市民と行政との新しい協働型の運営、運営体制、施設・設備管理・プログラム実施に関するルールをまとめていくための支援を担った。

平成19年度から、市民会議に関わった市民を中心に「たまがわ・みらいパーク企画運営委員会」が立ち上がり、プログラムの企画・実施などの運営を行なっている。センターは市民、行政と協働しながら施設を運営していくために、定例会への参加などを通じて側面的な支援を行なった。

都市緑化フェアにたまがわ・みらいパークが参加した際には、ご協力していただけるボランティア団体、障害者施設のコーディネートをこなした。

■春・秋の楽市

国営昭和記念公園みどりの文化ゾーンで、春と秋に開催される楽市の企画運営委員会に所属して、市民活動団体のPRや財源確保の場を提供するために、団体出店の取りまとめを行った。

日 時	①春の楽市 平成24年4月22日(日)
	②秋の楽市 平成24年10月28日(土)・10月29日(日)
場 所	国営昭和記念公園みどりの文化ゾーン
参加団体	市民活動センターたちかわ登録団体
	春の楽市 9団体 ②秋の楽市 21団体

(2) 関係機関・団体との協働事業の実施や支援

関係機関・団体の定例会への参加や協働事業などを通して地域課題の解決を図った。

- ・ 立川市民生委員・児童委員協議会地区定例会
- ・ 立川市地域ケア会議
- ・ 立川市小地域ケア会議
- ・ 立川市地域包括支援センター介護予防業務連絡会
- ・ 立川市地域包括支援センター事務連絡会

- ・立川市子ども支援ネットワーク
- ・立川市地域学習館運営協議会
- ・タチカワコミュニティビジネスプロジェクト
- ・多摩コミュニティビジネスネットワーク
- ・災害対策ネットワーク会議

■障がいのある人もない人も暮らしやすい立川を考える会

千葉県では、平成 18 年に「障害のある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例」が日本で初めて制定された。立川でも、同様の条例をつくりたいと障害者団体からの呼びかけがあり、障害種別を超えて市内の障害当事者や親の会、事業者などが協働し「障がいのある人もない人も暮らしやすい立川を考える会」が結成された。

障害についての理解を深め、障害ゆえの差別とは何かを市民と共に考え啓発する学習活動と、地域での懇談会などの開催を続けている。

現在活動を進めている団体は、立川麦の会、立川市肢体不自由児・者父母の会たつこのこ、立川市手をつなぐ親の会、NPO 法人自立生活センター立川、一般社団法人 animo、立川市社会福祉協議会の 6 団体。

○講座企画

日 時	平成 24 年 12 月 14 日(金)
場 所	立川市総合福祉センター
内 容	「障がいのある人もない人も暮らしやすい立川を考える条例作り学習会」
講 師	加藤良重(自治体審議会等委員、自治体職員研修講師など)
参加者数	40 人

(3)企業等との協働事業の実施や企業の社会貢献活動の支援

■ふれあいミュージックフェスティバル 2012

東京ガス(株)多摩支店、国立音楽大学との協働により平成 24 年度で第 20 回目の開催を迎えた。

この催しは障害のある方や、日頃クラシックコンサートに接しにくい方でも安心して参加できる取り組みとして開催している。当日の運営に多くのボランティアに協力いただき、車椅子・ストレッチャーを使用されている方の会場誘導などを行っている。

例年楽しみにされている市民が多く、当日アンケートに寄せられる声からも満足度は高い。また市内福祉施設で、当日の来場が難しい方へ国立音楽大学学生による出張コンサートを実施し好評を得た。

開 催 日	平成 24 年 12 月 1 日(土)
会 場	国立音楽大学講堂・大ホール
内 容	歌劇、オルガン独奏、金管アンサンブル 他
来 場 者	1,057 名
入 場 料	無料

ボランティア 会場設営、交通誘導、募金呼びかけなど、39名のボランティアの方にご協力いただいた。また、車イス介助の仕事として、若者支援NPO法人「育て上げ」ネットの方8名にもご協力いただいた。

プレコンサート

- ① 9/15(土) 介護老人保健施設 わかば /ヴァイオリンアンサンブル
- ② 9/22(土) 介護老人福祉施設 敬愛ホーム /声楽・ピアノ演奏
- ③10/29(土) 介護老人保健施設 至誠キートスホーム /クラリネット四重奏
- ④11/10(土) 地域デイサービス テイクオフ /フルート三重奏
- ⑤11/17(土) こらそん /フルート二重奏・ピアノ演奏
- ⑥11/17(土) 介護老人福祉施設フェローホームズ/ユーフォニアム四重奏

特別協賛 東京ガス株式会社 多摩支店

後 援 立川市、国立音楽大学、(財)立川市地域文化振興財団、読売新聞東京本社立川支局

(4)防災・減災活動の取り組み

■立川市総合防災訓練への参加

立川市社会福祉協議会では、立川市との協定により、発災時に災害ボランティアセンターの設置運営を行うことになっている。しかし、その機能や役割が市民に周知されていないという問題があった。そこで24年度は立川市で毎年実施している総合防災訓練にて、立川市災害ボランティアネットに協力いただき、災害ボランティアセンターに関するパネル展示を行った。来所者に災害ボランティアセンターを理解してもらうことで、発災時にその機能が活かされるよう発信した。来年度以降も継続して展示予定。

日 時：平成24年9月2日（日） 9：00～12：00

場 所：第三小学校

※当日は約60名の市民が立ち寄った。

■災害対策ネットワーク会議の開催

災害ボランティアセンターの機能や役割を周知させるとともに、立川市内の関係機関や組織と災害時に相互の協力体制を確立するため、各機関の役割や取組みを共有する場を設けた。来年度以降も定期的な開催を考えている。参加機関・団体についても取組み状況に応じて拡大を図っていく。

日 時：平成25年3月6日（水） 19:00～21:00

場 所：立川市総合福祉センター 2階 視聴覚室

参加機関・団体

○立川市 防災課・協働推進課

○立川商工会議所

- JCN マイテレビ
- エフエムたちかわ
- 立川市赤十字奉仕団
- たちかわ多文化共生センター（TMC）
- SeRV
- 立川市災害ボランティアネット

■企業の CSR 活動や社員研修への協力

企業から寄せられる「寄附がしたい」「CSR(企業の社会的責任)活動がしたい」「社会貢献できる人材育成プログラムを実施したい」といったご相談を受け、実施のための支援を行った。

○CSR 活動のご相談

弘久社（株）、大和ハウス（株）、多摩信用金庫、立川商工会議所、スマイル農園、東京在宅サービス、西武信用金庫など

○社員研修への協力

・三菱東京 UFJ 銀行

内 容	市内 9 ヶ所の施設・団体で 40 名の新入社員がボランティア体験
日 時	平成 24 年 5 月 15 日(火)・5 月 17 日(木)、5 月 19 日(金)
協力団体	フェローホームズ、やわらぎホーム・西立川、ワークセンターまことくらぶ、高齢社会の食と職を考えるチャンプルーの会、花音、「育て上げ」ネット、星槎国際高等学校立川学習センター、立川市社会福祉協議会高齢者デイサービス、立川市社会福祉協議会生活介護支援事業所

(5)各種企画委員会やプログラムへのスタッフ派遣

■関係機関が主催する委員会等へのセンタースタッフの参加

関係団体や行政機関などが主催する各種委員会、研究会にセンタースタッフ自身が参画することで、新たなニーズや情報を掴み、ネットワークづくりをする機会とした。

- ・立川市地域福祉計画推進委員会
- ・スポーツ祭東京 2013 立川市実行委員会
- ・立川市駅前滞留者対策推進協議会
- ・立川市人権学習事業実行委員会
- ・立川市交通マスタープランの会議
- ・立川市文化芸術のまちづくり協議会
- ・幸児童館運営委員会
- ・「楽市」企画運営委員会
- ・世界ふれあい祭実行委員会
- ・砂川高校定時制課程学校運営連絡協議会
- ・砂川高校定時制課程学校評価委員会

- ・東京ボランティア・市民活動センター センター長会議
- ・東京ボランティア・市民活動センター 事務局連絡会議
- ・東京ボランティア・市民活動センター 運営委員会
- ・北多摩西部ブロックボランティア担当者会議
- ・夏体験ボランティア 市区町村 担当者連絡会議
- ・災害ボランティア担当者連絡会議
- ・NPO 担当者連絡会議
- ・ボランタリーフォーラム TOKYO2013 実行委員会
- ・企業の社会貢献を考える会
- ・立川創業支援連絡会
- ・立川市若者等育成支援ネットワーク会議
- ・東京都社会福祉協議会地域福祉コーディネーターと協働する住民に関する研究委員会

■センタースタッフによる講師等の派遣

関係団体が実施する講座、講演会等にスタッフを派遣し、協働した。

- ・三菱東京 UFJ 銀行新任社員研修
- ・白梅学園大学
- ・地域福祉学会シンポジウム
- ・東京ボランティア・市民活動センター新任職員研修
- ・立川市教育委員会教育相談室相談員研修
- ・武蔵野市
- ・調布市
- ・東京都社会福祉協議会地域福祉コーディネーター養成研修
- ・群馬県社会福祉協議会
- ・社会福祉法人恵比寿会職員研修
- ・夢たち応援団キッズプレイワークショップ「ちちんぷいぷい遊び場になあれ！市役所屋上編」
- ・結サポートセンター会員向け学習会
- ・小地域ケア会議(第1地区/富士見町・柴崎町)
- ・コープくらしの助けあいの会
- ・フラワーセラピー研究会

(6)小中学校の介助員事業の充実とコーディネート

立川市が配置していた小中学校の介助員が、高齢者や障害者のヘルパー派遣事業所から職員が配置されるようになって3年を経過した。センターは新制度導入より、立川市教育委員会、学校、事業所間の、教育と福祉という異なった分野のコーディネートを行ってきた。

本年度は、修学旅行等の宿泊を伴う行事が多い年であったが、それ故に宿泊体制の整備・充実を図ることができたといえる。

また、中学への進学者が多いことも本年の特徴のひとつであったが、今後は、中学校卒業に向け

て、自立に向けた介助員の関わり方を、教育委員会、学校と共に考えていくことが重要であり、統合教育の実現に向けて進めていく。

■介助員にかかる、市と事業者、学校間のコーディネート

- ・対象校／10校
第一小学校、第三小学校、第六小学校、第八小学校、第九小学校、けやき台小学校、西砂小学校、大山小学校、上砂川小学校、新生小学校
- ・対象児童・生徒／15名
- ・事業者数／6事業者
特定非営利活動法人 ケア・センターやわらぎ・立川
社会福祉法人にんじんの会 ケアステーションにんじん・立川
社会福祉法人にんじんの会 ケアステーションにんじん・玉川上水
医療法人社団東京石心会 立川介護老人保健施設わかば
一般社団法人 animo
社会福祉法人立川市社会福祉協議会 在宅サービス係
- 会議等の開催／20回
 - ・事業者連絡会議／1回
 - ・教育委員会等との会議・打合せ／2回
 - ・学校、保護者、事業者等との会議・打合せ・面談／16回
 - ・介助員研修／1回

3. 地域づくり

(1)地域懇談会の開催

■町単位での取り組み

○栄町・若葉町

○上砂町・一番町・西砂町

「2. 平成22年度の地域福祉コーディネーターの取り組み」に前掲。

○幸町

	日時・会場	主な協議内容
1	平成24年4月 述べ28名	・事業所ヒアリングの実施(16か所)
2	平成24年4月26日(木) 幸学習館 参加者8名	・事業所ヒアリングについて
3	平成24年5月22日(火) 幸学習館 参加者11名	・事業所ヒアリングについて ・夜回りについて
4	平成24年6月18日(月) 幸学習館 参加者9名	・事業所ヒアリングについて ・夜回りについて
5	平成24年7月19日(木)	・夜回りについて

	幸学習館 参加者 14 名	
6	平成 24 年 8 月 28 日(火) 九番組自治会公会堂 参加者 20 名	・夜回りを実施(3丁目)
7	平成 24 年 11 月 5 日(月) 幸学習館 参加者 12 名	・夜回りの振返り ・今後の取り組みについて
8	平成 25 年 2 月 4 日(月) 幸学習館 参加者 15 名	・ごみの講座について ・今後の取り組みについて
9	平成 25 年 2 月 23 日(土) 幸学習館 参加者 33 名	・ごみの講座を実施
10	平成 25 年 3 月 6 日(月) 幸学習館 参加者 11 名	・ゴミの講座の振返り ・平成 24 年度のまとめ

■地区単位での取り組み

「障がいのある人もない人も暮らしやすい立川を考える会」(前掲)と協働して、地区単位で懇談会を行った。

○1 地区 (富士見町・柴崎町)

・6/1 参加者 6 名、8/23 参加者 32 名、9/13 参加者 9 名、11/13 参加者 8 名

○2 地区 (錦町・羽衣町)

・5/15 参加者 10 名、6/19 参加者 9 名、8/21 参加者 8 名、10/9 参加者 13 名、
11/6 参加者 7 名、12/4 参加者 8 名、2/5 参加者 9 名、3/19 参加者 18 名

○3 地区 (曙町・高松町・緑町)

・5/22 参加者 6 名、6/12 参加者 31 名、12/20 参加者 4 名、12/26 参加者 3 名、
1/8 参加者 4 名、1/18 参加者 23 名

○4 地区 (栄町・若葉町)

・4/12 11 名、6/7 18 名、10/17 11 名、1/16 11 名、3/22 8 名

○5 地区 (幸町・柏町・泉町・砂川町)

・6/1 参加者 33 名、12/11 参加者 3 名、1/30 参加者 8 名、3/6 参加者 18 名

○6 地区 (上砂町・一番町・西砂町)

○6 地区 (上砂町・一番町・西砂町)

・4/12 参加者 25 名、5/31 参加者 14 名、7/3 参加者 14 名、8/17 参加者 12 名、
9/27 参加者 12 名、10/6 参加者 31 名、11/14 参加者 11 名、1/31 参加者 13 名、

(2)グッドネイバー運動推進団体、地域関係団体との連携

市民が地域の中で、共に学び、参加し、支え合うまちづくりをすすめる目的で、市内 4 ヶ所 (栄町、若葉町、柴崎町、西砂町・一番町) にグッドネイバー運動推進団体を指定し、活動費の助成や情報交換を行っている。平成 16 年に行なった本会の地域福祉市民活動計画及び立川市の地域福祉計画の策定時は、この 4 地区で地域懇談会を開催し、両計画に反映させた。

平成 19 年度からは栄町・若葉町、平成 22 年度から上砂町・西砂町・一番町を対象に地域福祉コーディネーターが配置され、連携を図りながら地域活動を展開している。

西砂町・一番町では松中小学校内ふれあい交流室での子どもの見守り活動が定着し、地域の中で大きな力となっている。また、柴崎町では学校と地域のつなぎ役として子どもの居場所づくりだけではなく、生活支援講座の中で、地域課題を共に考え、解決できるような機能も果たしている。本センターとしては、地域での協議の場をつくり出すような役割を引き続き果たしていくことも期待している。

(3)住民グループの組織化支援

■支えあいサロンの推進

市民の孤立を防ぎ、身近な地域の中で緩やかなつながりを継続できる場として、隣近所単位のたまり場活動である「支えあいサロン」の運営を支援している。

登録グループは、子育て中の人が多く集うサロンと、高齢者中心のサロンとに分けることができる。開催されているサロンの中には、防災活動やサロン開催時以外の時間帯での見守り活動につなげる取り組みをしているところもあり、地域への波及効果の高さを改めて認識できた。今年度は高松町、曙町において健康体操や高齢者中心のサロンや子育てのサロンが増え、登録サロン数は昨年度に比べ 26 団体増加した。高齢社会における重要な取り組みの一つであるので、今後も新たな人材発掘にも力を入れ、一つでも多くサロンが立ち上がるよう支援していきたい。

○登録サロン数 93 ヶ所

- ・高齢者サロン：70 ヶ所
- ・子育てサロン：21 ヶ所
- ・その他のサロン：2 ヶ所

■支えあいサロン会員交流会

支えあいサロン登録数が増加するとともに活動内容や運営方法も多様化してきたため、サロン団体間の交流会を設けた。サロンを運営していく上での工夫や活動の様子等を情報交換することで、相互に今後のサロン活動の発展に繋がったと思われる。

日 時：平成 24 年 11 月 1 日（木） 10：00～12：00

場 所：総合福祉センター 2 階 視聴覚室

参加者：14 名（サロン数：9）

(4)学校を核とした市民学習支援、地域づくり

市内の小中学校から依頼を受けて、総合的な学習の時間や一般科目の中で、福祉教育、市民学習に関する、学校と市民のコーディネートを行った。この取り組みは、NPO 法人自立生活センター・立川、障害当事者、地域の高齢者、市民活動団体の活動者、商店街店主、行政職員など、さ

まざまな市民と協働して進めている。

数年来の取り組みの中では、肯定的な変化として地域の支援者が着実に市民学習を支援する力をつけていることが挙げられる。それは生徒たちとのやり取りが向上したということに留まらず、学校との打合せにおいてプログラムを協働で作成する力や、コーディネートをする力も身に付いているということである。プログラムの内容についても、学校の実情に合わせて臨機応変に作成してきたため、経験が蓄積されている。

また、学校におけるプログラム実施の中で、地域の課題にも触れることが多くある。と同時に、学校の抱える悩みは、地域の状況を反映しているともいえる。学校での取り組みは、地域の教育力を高める機会でもあると捉え、単にプログラム提供に留まらず、住民を視野に入れて活動をしてきた。今後は、立川市社会福祉協議会の使命「住民主体による福祉コミュニティづくり」を推進していくため、地域の支援者が主体となる市民学習支援のコーディネートを展開していく。

■学校への学習支援や出前講座の実施(相談のみも含む)

学校と学年	期間	プログラム作成協力	協力者のコーディネーター	プログラムの分野 又は紹介した講師や協力者	機材貸し出し協力	職員派遣回数
一小 5年	2月	○	2名	認知症サポーター養成講座	無	1
一小 6年	2月	○	2名	認知症サポーター養成講座	無	1
四小 4年	1月	○	6名	総合福祉センターの見学	無	1
四小 4年	1~2月	○	4名	視覚障害のある人との交流	アイマスク	1
七小 3年	6-7月		6名	視覚障害のある人・聴覚障害のある人・車椅子使用者との交流	車椅子	1
新生小 4年	3月		2名	認知症サポーター養成講座	無	1
5年	3月		2名	認知症サポーター養成講座	無	1
6年	3月		2名	認知症サポーター養成講座	無	1
南砂小	5月	○	2名	外国人との交流		1
けやき台小	1月	○	1名	視覚障害者との交流		0
松中小 6年	11月	○	1名	認知症サポーター養成研修	無	2
一中 2年	1月	○	4名	視覚・車椅子使用者との交流	無	1
二中 2年	9-10月		6名	視覚・聴覚・車椅子使用者との交流	車椅子、 アイマスク	1
七中 2年	6月	○	6名	福祉作業所利用者とスタッフ、 ホームヘルパー、高齢者施設職員との交流、	無	5
九中 2年	10月			ボランティアに関する調査	無	1
立川ろう学校	5月		2件	職業体験先を2箇所紹介		

■立川市教員研修への協力

立川市教育委員会が主催する福祉教育をテーマにした参加型・体験型学習の研修に協力した。平

成 12 年から、地域の障害のある方々に協力をいただきながら実施してきた。実施方法も定着してきたことから、NPO 法人自立生活センター・立川が中心となり、教員の資質向上に寄与した。

日 時 平成 24 年 7 月 31 日(火) 9 時 30 分～15 時 30 分
 場 所 柴崎学習館 第 2 学習室
 参 加 者 立川市および近隣市の教員 9 人
 内 容 ・「出前講座」の取り組み
 ・「みんな違ってみんないい」のテーマで座談会
 主 催 立川市教育委員会・NPO 法人自立生活センター・立川

■都立高校の奉仕体験活動の支援

都立高校において導入された奉仕体験活動への具体的なプログラム作成の協力や、社会資源の情報提供を市内の 3 校（5 課程）に対して行なっている。平成 19 年度に実施されてから、学校と協力者や市民活動団体とのつながりができ、より効果的なプログラムづくりができています。

○各校での取り組みについて

学校名（課程）と実施学年	取り組み内容と協力団体
立川高校（全日制） 1-2 年生約 23 名	・保育園での活動支援（愛光あけぼの保育園） ・環境保全活動（玉川上水の自然保護を考える会） ・小学生への夏休み宿題教室支援（学ボラの会）
立川高校（定時制） 2 年生約 80 名	・国際協力・理解（立川国際友好協会 T I F A） ・環境（立川かんきょう市民の会）
立川国際中等教育学校（全 日制） 4 学年 160 名	・地域防災（立川市災害ボランティアネット）
砂川高 （単位制 1 部、2 部 3 部） 1 年生 120 名 2 年生 130 名	・環境保全活動（『キャップの貯金箱』推進ネットワーク） ・若者の就労（NPO 法人「育て上げ」ネット） ・障害のある人との交流 （市内在住の車椅子使用者、市内在住の視覚障害者）
砂川高校（通信制） 2 年生 100 名	・働くことについて（写真家 富澤享氏/美容院 HAREKE 浅沼章氏） ・障害者について（立川市手をつなぐ親の会）

(5)地域コミュニティ防災活動等への住民参加の促進とネットワークづくりの推進

地域での防災・防犯に関する懇談会やまち歩きなどを開催したほか、立川市災害ボランティアネットと連携して、防災活動のネットワークづくりを推進した。また、防災モデル地区事業や、小学校を拠点とした町単位での地域防災訓練などへ参画し、住民参加を促進した。

■懇談会、まち歩き等の開催、協力

- ・自治会などでの防災学習会の開催

- ・立川市防災モデル地区推進事業への参画
- ・地域防災訓練への参画

■立川市災害ボランティアネットとの連携

平成 21 年より、被災地を支援した経験のある市民を中心に、立川市及び首都圏での震災発生に備えたネットワークづくりを目的とし発足された、立川市災害ボランティアネットと連携して、地域懇談会での災害に備える啓発活動や、発災時の災害ボランティアセンター設置・運営マニュアル策定への協力、災害ボランティアリーダー養成、定例会の開催など、本会と連携した活動を行っている。

<災害ボランティアリーダー養成講座>全 7 回(受講生 47 名)

- ① 9/15(土)「防災と地域のつながり」講演
- ② 9/29(土)「防災倉庫の備蓄品の確認と炊き出し訓練」
- ③10/13(土)「まち歩きと図上訓練」
- ④10/27(土)「救護(スタートトリアージ)訓練」
- ⑤11/10(土)「災害ボランティアセンター立ち上げ訓練」
- ⑥12/ 2(日)「救護(普通救命技能資格講習)」
- ⑦12/15(土)「要援護者を守る」講演

(6)地域コミュニティ活性化事業

防災をベースにした地域コミュニティづくりや災害ボランティアセンターの役割など、立川での必要な備えについて考えるシンポジウムを開催した。

■地域コミュニティ活性化シンポジウム

「地域の絆を深める防災まちづくり」

日 時：平成 24 年 8 月 11 日 (土) 13:00～16:00

場 所：トヨタドライビングスクール東京 ホール

プログラム：(1) 基調講演 明治大学大学院特任教授 中林一樹氏

(2) 事例発表 ①東京ボランティア・市民活動センター 高山和久氏

②国分寺市光町北部自治会防災部長 久松信睦氏

③立川市災害ボランティアネット 矢野和孝氏

(3) パネルディスカッション

参加者数：110 人

(7)震災避難者の孤立化防止事業

震災により、市内に避難してきた方が孤立しないように、平成 23 年 10 月より東京都からの補助を受け孤立化防止事業を実施した。戸別訪問担当者を配置し、地区担当者と共に訪問調査などを行った。都営上砂町 1 丁目アパート(通称:大山団地)に居住した方には、大山団地自治会を中心に組織された「東日本大震災避難者を支援する会」に立川市社会福祉協議会より業務委託をして見守りが

なされている。市民活動センターは、大山団地以外の、市営住宅や個人宅に避難している方へ訪問調査を行った。

震災から2年が経過し、原発事故の影響もあって避難は長期化を強いられている。地元へ帰ることを断念している避難者も出てきている状況であり、避難者のニーズも変化してきている。生活面では表面上安定している様子であるため、訪問が必要ないとされることも多いが、今後、居住費の減免など支援策が終了したときには、新たな課題が湧き上がってくると考えられる。社会福祉協議会は、その時に備えて、避難者につながっている開かれた窓口として存在することが求められている。

■避難者数 91 世帯 185 名(24 年 3 月末時点)

- ・都営大山団地 (60 世帯 131 名)
- ・市営住宅、その他個人宅等 (31 世帯 54 名)

■戸別訪問の実施

・戸別訪問実施 20 世帯。電話などで事前連絡を行い、訪問の必要性を判断した。初回訪問では、訪問担当者 1 名と地区担当者 1 名の 2 名で訪問を行った。課題に応じて、地域包括支援センターや民生委員・児童委員、司法書士など、関係機関と連携して支援を行った。その後も見守り、支援などが必要な方には継続して訪問をしている。

4. 市民活動支援

(1) ボランティア情報提供希望者および登録団体との連携

■ボランティア情報希望者

ボランティア情報提供希望者には、個別に対応し、希望に合わせて具体的な情報を引き出し、活動につなげるように努めている。

■登録団体

主に立川を拠点として活動している NPO 法人やボランティアグループなどの市民活動団体の登録制度を設け、情報交換を密にすることで連携を深めた。また、市民活動団体の活きた情報を広く市民に公開するため、ホームページ「市民活動 WEB たちかわ」の運営や「市民活動センター★たちかわ通信」の発行、『登録団体紹介 BOOK』を発行した。このほかにも、市内福祉施設でのボランティア活動情報を掲載した『小さな思いが大きな輪に』の発行や助成事業、機材の貸出し、市民活動団体マネジメント講座の開催など、市民活動団体それぞれの活動がより充実するための連携を図っている。

○登録団体 161 グループ (6,359 名)

- ・障害のある人や高齢者、医療に関するグループ 48 グループ (2,306 名)
- ・子どもや子育てに関するグループ 30 グループ (1,152 名)
- ・環境に関するグループ 10 グループ (235 名)

・文化・スポーツに関するグループ	30 グループ(1,358名)
・多文化共生に関するグループ	3 グループ(230名)
・地域づくり・まちづくりに関するグループ	33 グループ(721名)
・いろいろな相談事業に関するグループ	7 グループ(350名)

(2)おもしろボランティア大学の開催

多様な市民活動を行なう団体を講師に迎えたり、地域イベントのスタッフとして参加したりして、市民活動に触れるきっかけをつくとともに、ボランティア活動のきっかけづくりや登録団体の活動紹介、その場に集まった参加者の学びあいの機会をつくりました。

○第31回おもしろボランティア大学

開催日	平成24年4月22日(日)
会場	春の楽市
参加者	5名
テーマ	「楽市を106倍楽しむ楽市案内人になろう！！」
講師	市民活動センターたちかわ運営委員、市民活動センターたちかわスタッフ

○第32回おもしろボランティア大学

開催日	平成24年7月25日(水)
会場	羽衣中央会館 第2学習館
参加者	11名
テーマ	「支えあいサロン講座」
講師	あら七あらっ八 岡野 トメ氏 みんなのサロン 室橋 三郎氏、関田 良一氏 市民活動センターたちかわスタッフ

○第33回おもしろボランティア大学シンポジウム

開催日	平成24年3月9日(土)
会場	立川市女性総合センター・AIM 第3学習室
参加者	49名
テーマ	「団地の新しい取り組み事例から学ぶ～今日の生活課題」
講師	富士見町団地・結サポートセンター 今井 司氏 江の島道東住宅自治会役員 中村 昭二氏 松中団地自治会事務局長 杉之原 峰子氏 けやき台団地自治会副会長 中澤 映子氏
コーディネーター	立川市北部東わかば地域包括支援センター 岡 浩生氏

(3) ボランティア体験プログラムの実施

■夏！体験ボランティア 2012

市民のボランティア活動のきっかけづくりを目的として、夏休み期間を中心に市内の福祉施設や市民活動団体と連携をとりながら実施した。

福祉分野以外の団体からも体験プログラムの提供を得ており、充実している。

参加者の傾向として、高校生の参加者が全体の半数以上を占めている。また、市外在住者が半数近くを占めており、近隣の学生層は市民活動センターたちかわのホームページから情報を得ている。小中学生向けにも PR しているが、小学生のプログラムが少ないため、今後、受け入れ施設と検討していく。

- 開催時期 7月～8月を中心とした夏期
- 活動メニュー 市内の受入れ施設・団体等 50 団体 74 プログラム
- 参加者 160 名

■秋の楽市案内人ボランティア

これまでおもしろボランティア大学の企画として位置づけていたが、「秋の楽市2012」より独立させた。これまでの会場案内のプログラムに、新たなプログラムとして障害のある方の買い物等の付き添いを加えた。しかし、当日雨天であったため、このプログラムは中止とした。次回の「春の楽市2013」で再度実施予定。

- 開催日 平成24年10月28日(日)
- 会場 秋の楽市
- 参加者 6名
- テーマ 「楽市を107倍楽しむ楽市案内人ボランティア」
- 講師 市民活動センターたちかわ運営委員、市民活動センターたちかわスタッフ

(4) 市民活動情報の受発信機能強化

■ボランティア・市民活動情報コーナーの設置

総合福祉センター2階に、自由に情報や書籍を閲覧したり、チラシなどを入手できるボランティア・市民活動情報コーナーを設置している。また、情報検索ができるコーナー「フリースポット」も運営し、市民が気軽に情報を入手できるようにしている。活動分野・内容・形態ともに多様な団体が情報を寄せてくださるようになっている。

豊富な情報収集と同時に、必要としている情報を絞り込んだり、新たな情報を引き出したりすることもセンターの役割である。

- 情報数 約 1,500 (まちづくり/保健・医療・福祉/多文化共生・海外支援/生涯学習/子ども/環境・動物保護/災害援護活動/文化・芸術・スポーツ/人権/NPO/ボランティア募集/職員募集/資格取得/組織マネジメント/ファシリテーションなどのテーマに関する情報)

■市民活動センターホームページ「市民活動 WEB たちかわ」の運営

インターネット上にてボランティアの募集情報や市民活動団体のイベント情報などを配信。登録した市民活動団体については、団体自身のパソコンで情報配信できる機能を活用できるようにしている。

団体からの情報発信が増加すると同時に、ホームページの閲覧をきっかけに活動への参加につながるものが年々増加している。

■市民活動センター情報紙「市民活動センター★たちかわ通信」

ボランティアやNPOに関する取材記事、情報を毎月1回、情報紙として発行した。

市民が自由に手にできるよう、図書館、学習館などに設置すると同時に、市内協力店にも設置しているほか、関係機関、市民活動団体などには直接送付している。また、読売新聞立川北部サービスセンターの協力により、栄町、高松町、曙町の一部においては新聞折り込みにより配布している。富士見町地区の自治会に関しては、自治会ごとに回覧していただいている。

年5回（5月、7月、10月、12月、2月）は、立川市社会福祉協議会の機関紙である「あいあい通信」内に情報を掲載して市内全戸配布している。団体からは、開催する講座やボランティア募集のお問い合わせをいただいたという声が寄せられ、活動されている。

平成23年度より、立川市内の小中学校に年3回「市民活動センター★たちかわ通信学校便」を発行し、総合学習や夏！体験ボランティア、ふれあいミュージックフェスティバルなど、社会福祉協議会の活動を紹介した。

・市民活動センター★たちかわ通信	5,600部×7回	計 39,200部
・市民活動センター★たちかわ通信学校便	13,000部×3回	計 39,000部
・あいあい通信に情報掲載	76,000部×5回	計 380,000部

■市民活動団体リスト・ボランティア受け入れ団体リスト作成

市民活動センターたちかわ登録団体の紹介冊子「市民活動センターたちかわ登録グループ紹介BOOK」を発行している。

○「市民活動センターたちかわ登録グループ紹介BOOK」	掲載団体	161団体
○ボランティア紹介冊子「小さな思いが大きな輪に」	掲載団体	53団体

(5)市民活動向け講座・研修会等の開催

■NPO 法人設立ガイダンス

NPO法の解説・法人化の意義・設立に向けた手順や事務についての内容で、年3回、平日夜間に開催。参加団体の活動分野は多岐にわたる。「NPOとは何か」を入り口に多様なグループ運営の相談・質問が持ちかけられる場となっている。

ガイダンスだけでは「日程が合わない」「個別に解説してほしい」という声も多く、適宜、窓口でも相談を受け付けている。

参加者延べ人数	35名
多い質問	「NPO法人と他法人の違いについて」「役員・社員について」

	開催日時	参加者数	参加者の活動分野
①	平成 24 年 7 月 23 日(月)	5 名	市内自治会
②	平成 24 年 7 月 27 日(金)	22 名	障害者施設
③	平成 24 年 10 月 18 日(木)	8 名	障害者施設
④	平成 25 年 2 月 14 日(木)	16 名	高齢者施設、障害者施設

■NPO 法人・非営利団体のための運営実務あれこれ講座

柔軟で特徴ある市民事業を起こす NPO 法人や非営利団体が増加している一方、運営実務能力については悩みを抱えている団体が多い。本センターで行っている NPO ガイダンスや運営相談利用者からも、会計・税務・労務・定款のつくり方などに関する専門講座開催を望む声が多いため、運営基盤づくりの支援策のひとつとして開催している。

- 開催日 ①平成 24 年 2 月 14 日(木) ②2 月 21 日(木) ③3 月 2 日(土) ④3 月 7 日(木)
- 会場 総合福祉センター 視聴覚室
- 内容 ①NPO 法人設立ガイダンス 講師：市民活動センターたちかわスタッフ
 ②定款のつくり方 講師：川森玲子氏
 (東京ボランティア・市民活動センタースタッフ)
 ③NPO 法人と会計・税務 講師：内藤純氏(公認会計士・税理士)
 ④NPO 法人と労務 講師：井嶋栄治氏(社会保険労務士)
- 参加者 ①16 名 ②16 名 ③27 名 ④22 名

■「認定」をとりたい東京の NPO 法人のための 認定 NPO 法人&会計基準セミナー

認定 NPO 法人の制度改定に伴い、東京ボランティア・市民活動センターとともに講座を開催。

- 開催日 ①平成 24 年 5 月 11 日(金) ②5 月 7 日(月) ③9 月 21(金)
- 会場 立川市商工会議所 会議室
- 内容 ①認定 NPO 法人セミナー
 講師：関口 宏聡氏 (NPO 法人シーズ・市民活動を支える制度をつくる会)
 ②NPO 法人会計基準セミナー
 講師：岡田 純氏 (税理士、NPO 支援東京会議)
 ③改正 NPO 法における、会計・税務のポイント～
 講師：中村元彦氏(公認会計士・税理士)
- 参加者 ①183 名 ②118 名 ③60 名

(6)市民活動団体成事業の実施

市民活動団体の立ち上げ資金や事業費について、運営委員による審査会にて、助成の可否を決定した。

- ファーストステップ助成 5 団体 246,840 円
 ○事業継続支援助成 11 団体 550,000 円

団 体 名	申請区分	助 成 額
東京立川断酒新生会	社会福祉に関する普及啓発活動	50,000 円
立川市ラジオ体操協会	市民交流事業	50,000 円
三多摩市民後見を考える会	社会福祉に関する普及活動	50,000 円
社会教育団体 MOI	ファーストステップ助成	50,000 円
和太鼓「趣」	市民交流事業	50,000 円
立川市聴覚障害者協会	社会福祉に関する普及活動	50,000 円
一般社団法人 市民の学習・活動・交流センター シビル	市民交流事業	50,000 円
キネマたちかわ	市民交流事業	50,000 円
市民のひろば憲法の会	その他(憲法に関する啓発活動)	50,000 円
立川市肢体不自由児・者 父母の会たつのこ	市民交流事業	50,000 円
LFG かるがも 愛の家族立川	ファーストステップ助成	46,840 円
フリー談話室 さぼう	ファーストステップ助成	50,000 円
市民活動資料・情報センターをつくる会	市民交流事業	50,000 円
特定非営利活動法人 市民活動サポートセンター・アンティ多摩	市民交流事業	50,000 円
一般社団法人 ほとステーション	ファーストステップ助成	50,000 円
多摩 fun アート	ファーストステップ助成	50,000 円

■民間助成の周知

民間団体の助成情報を、市民活動センターのホームページや広報紙に掲載するほか、各団体に個別に送付し、市民活動団体やボランティアグループに周知した。また助成に推薦が必要な場合は、地域福祉の推進につながる活動であるかを精査し、推薦を行った。

(7)事務機器等の貸出機材の整備

■機材の貸出し

市民活動支援の為、機材の貸し出しを行った。印刷機、拡大印刷機の利用件数は昨年度とほぼ同数であった。

<利用実績>

	印 刷 機		拡大印刷機	
4月	47件	20,500円	17件	10,570円
5月	41件	16,400円	16件	10,220円
6月	45件	13,950円	10件	4,800円
7月	27件	11,150円	8件	5,040円
8月	21件	7,200円	10件	3,900円
9月	34件	15,050円	19件	17,810円
10月	42件	19,400円	15件	15,330円
11月	33件	12,150円	13件	7,300円
12月	26件	9,400円	6件	3,470円
1月	24件	7,000円	6件	3,820円
2月	30件	9,750円	10件	6,870円
3月	36件	13,050円	11件	6,320円
合計	406件	155,000円	141件	95,450円

・パソコン・図書・車椅子の貸出し

<利用実績>

	パソコン	図 書		車椅子の貸出し	
4月	15件	0件	0冊	0件	0台
5月	18件	3件	6冊	1件	17台
6月	39件	1件	3冊	2件	20台
7月	28件	2件	2冊	0件	0台
8月	49件	2件	3冊	1件	2台
9月	39件	3件	5冊	4件	42台
10月	18件	2件	3冊	8件	61台
11月	9件	1件	1冊	5件	50台
12月	12件	3件	3冊	2件	20台
1月	20件	3件	3冊	0件	0台
2月	27件	2件	2冊	1件	10台
3月	15件	3件	5冊	2件	14台
合計	289件	25件	36冊	26件	236台

・各種備品の貸出

<利用実績>

備 品 名	団 体 数	貸し出し数
ア イ マ ス ク	0件	延べ0枚
白杖	1件	延べ9本

DVDプレイヤー	8件	延べ8台
P A (音響装置)	21件	延べ21台
テ ン ト	3件	延べ6張

■ボランティアルームの管理運営

ボランティア活動の拠点として、市内2ヶ所のボランティアルームの管理運営を行った。

- ・しばぎきボランティアルーム（シルバー人材センター内／立川市柴崎町1-17-7）
- ・ふじみボランティアルーム（立川市総合福祉センター2階／立川市富士見町2-36-47）

<利用実績>

	しばぎきボランティアルーム	ふじみボランティアルーム
4月	8団体	24団体
5月	8団体	22団体
6月	9団体	22団体
7月	7団体	18団体
8月	14団体	8団体
9月	12団体	13団体
10月	16団体	15団体
11月	12団体	21団体
12月	10団体	14団体
1月	6団体	20団体
2月	12団体	20団体
3月	12団体	24団体
合計	126団体	221団体

(8)ボランティア保険の加入受付

ボランティア活動を行う方が安心して活動できるよう、ボランティア保険および行事保険の相談、加入の受付をした。

<利用実績>

ボランティア保険	4,827名
ボランティア活動等行事用保険	193件6,533名

5. その他

(1)視察研修・取材の受入れ

他地区のボランティアセンターや運営委員会の視察研修やヒアリングを受け入れた。

- ・立川市立看護学校
- ・袋井市社会福祉協議会

- ・武蔵野市社会福祉協議会
- ・東京都社会福祉協議会 地域福祉部
- ・八女市地域包括支援センター
- ・自治大学
- ・武蔵野大学
- ・首都大学
- ・日本社会事業大学
- ・高崎市・高崎市社会福祉協議会
- ・日本共産党都議会議員団
- ・武蔵野市地区社協

(2)実習生の受入れ協力

国家資格である社会福祉士の取得を目指す実習生を積極的に受入れ、人材育成に寄与した。

○日本社会事業大学	2名	○東洋大学	1名
○日本福祉大学	1名	○武蔵野大学	1名
○明星大学	1名	○白梅学園大学	1名
○法政大学	1名	○立教大学	1名

合 計 9名 (3～5日間)

IV. 平成 24 年度の市民活動センター事業を振り返って

平成 24 年度は、人口の減少や少子高齢化の進展、家族や地域の支え合い機能の低下などが続く社会状況と長引く景気の低迷や失業者の増加などによる生活困窮者の増大など、経済状況が未だ好転しない 1 年であった。

このような中、立川市社会福祉協議会では、地域福祉市民活動計画「第 3 次立川あいあいプラン 21」に掲げた、①住民が力を発揮し協働できるまち、②互いを尊重しともに生きるまち、③孤立なく支えあえるまち、④誰もが必要なサービスを利用できるまちを実現できるよう、年度当初に計画された事業を着実に実施してきた。また、地域福祉市民活動計画「立川あいあいプラン 21」推進委員会を開催（立川市地域福祉計画推進委員会と合同開催）し、地域福祉コーディネーターの増配置の実現にも努めた。

一方、東日本大震災の発生から 2 年余りが経過する中、立川市や関係機関と協働して立川市内で避難生活を送られている皆さまの孤立化防止などの取組みも行い、改めて、この震災により尊い生命を失われた皆さまに哀悼の意を表するとともに、被災された皆さまに心からお見舞いを申し上げ、一日も速い被災地の復興と被災された皆さまの生活再建をサポートした 1 年でもあった。

1. 平成 24 年度立川市社会福祉協議会 重点推進事項の推進

立川市社会福祉協議会は、平成 24 年度の重点推進事項として、①住民のつながりづくりの促進、②成年後見制度における法人後見の充実、③関係機関とのネットワークによる地域包括ケアの推進、④障害児学童保育所の運営、⑤立川市総合福祉センターの指定管理、⑥震災対策の強化、の 6 点を掲げ事業を進めてきた。

中でも、市民活動センターたちかわは、①住民のつながりづくりの促進と⑥震災対策の強化に努めた。以下、重点推進事項に沿った事業を振り返りたい。

(1) 住民のつながりづくりの促進（地域福祉コーディネーターの配置）

「立川あいあいプラン 21」に位置づけられた地域福祉コーディネーターは、市内 2 地区に配置されている。栄町・若葉町（＝第 4 地区民協エリア）は、わかば地域包括支援センターを拠点として活動を展開。上砂町・一番町・西砂町（＝第 6 地区民協エリア）の地域福祉コーディネーターも、かみすな地域包括支援センターを拠点として活動した。

2 名体制となって以後、相談件数や連絡・調整回数も大幅に増加し、地域福祉コーディネーターの存在が認知されてきたといえる。

平成 24 年度は、「立川あいあいプラン 21」で掲げた平成 25 年度の増配置に向け、地域福祉市民活動計画「立川あいあいプラン 21」推進委員会を開催した。委員会においては、「地域福祉ウォッチャー」調査の結果や、市民委員による地域福祉コーディネーター配置の効果を検証した結果をまとめ、報告書を立川市へ提出した。その結果、地域福祉コーディネーターの効果が認められ、平成 25 年度より、錦町、羽衣町（＝第 2 地区民協エリア）への配置が実現した。

(2) 震災対策の強化

東日本大震災以後、地域の災害対策への関心は大いに高まってきた。この機を逃さぬように、市民活動センターは、関係機関・団体と協働して様々な震災対策を行ってきた。

福島県相馬市災害ボランティアセンターの運営支援に市民活動センターの職員を派遣した経験を生かし、災害ボランティアセンター設置・運営マニュアルを定め、それに基づいて立川市総合防災訓練での、災害ボランティアセンターの啓発や、発災時に、立川駅周辺の帰宅困難者への対策会議である、立川市駅前滞留者対策推進協議会への参画などを行った。

また、関係団体と協働で、災害ボランティアリーダー養成講座を開講し、災害時の人材養成を図ったほか、災害時に関係機関と連携するための、災害対策ネットワーク会議を開催し、立川での発災に備える災害対策を進めた。

2. 平成 24 年度を総括して

上記のほか、運営委員会によるセンター運営や、「協働の推進」「地域づくり」「市民活動支援」のキーワードに基づいた事業を総括したい。

(1) 運営委員によるセンター運営

運営委員には、3つの専門委員会を置き、多様な視点でセンターを運営してきた。

①事業推進委員会 ボランティア入門講座「おもしろボランティア大学」を、ボランティア活動の裾野を広げるべく進めてきた。また、支えあいサロンの世話人や団地群での活動者を増やすことを目的に、支えあいサロンの講座や市内団地の取り組みを紹介するシンポジウムを開催するなど、新たな取り組みも行った。

②団体支援委員会 団体登録制度などを見直すべく検討を行った。現在の団体登録制度や支えあいサロンなどの制度の課題を明らかにし、時代にあった制度となるよう見直しを図った。

③課題解決実行委員会 市民活動センターたちかわ開設から10年を迎え、この間の相談内容を分析した。これから先の10年を見据え、データベースの見直しなどを行い、市民活動センターたちかわのあるべき姿を探求した。

(2) 協働の推進

新しい公共の場づくりのためのモデル事業への参画、市民と行政との協働による運営を進めるための立川市地域学習館運営協議会への参画、自治会連合会支部単位での小学校を拠点とした地域防災訓練などへ参画してきた。

また、同じく地域づくりを推進していく地域包括支援センターとの協働にも力を入れ、各地区での小地域ケア会議への参加・協力など、協働を進めてきた。

(3) 地域づくり

地域福祉コーディネーターの活動を重点的に推進して、地域福祉の推進に大きく貢献した。コーディネーター配置地区以外でも地域懇談会の開催を進め、幸町では災害時に協働できる企業のヒアリング調査を行うという新たな取組みが芽生えた。

また、地域での助け合いグループなどの組織化支援を行って、孤立化の防止につながる小地域活動を推進した。特に支えあいサロングループの増加は著しかった。

(4)市民活動支援

「市民活動支援」については、地域福祉コーディネーターとセンター職員が連携してボランティア活動やNPO活動など、多様な相談に対する的確な対応を行ったほか、助成事業、情報の受発信、OA機器の貸し出しなどを行ってきた。

情報発信の強化として開始した、市民活動センター★たちかわ通信学校版を市内小中学校に通う、全児童・生徒に継続して配布した。地域との関わりが深く、将来の地域の担い手と期待される小中学生やその親世代に、社会福祉協議会の取組みを伝えることを目的として発行した。また、市内の一部自治会には回覧を依頼し、さらなる広報の強化を図った。

V. 平成 25 年度に向けて

平成 25 年度は、第 3 次「立川あいあいプラン 21」に沿って、次の活動を重点的に取り組んでいく。

○地域福祉コーディネーターによる住民福祉活動の推進

増配置が実現した第 2 地区（錦町、羽衣町）には、立川市子ども未来センターがオープンし、新たな活動拠点が整備されてきた。それらの拠点を活用しつつ、第 6 地区（上砂町・一番町・西砂町）、第 4 地区（栄町・若葉町）の地域福祉コーディネーターと、市民活動センターの地区担当者との連携を深め、ご近所で茶話会やおしゃべりが出来る居場所づくりや災害時にご近所同士が助け合えるためのしくみづくりなど、住民の生活課題に取り組んでいきたい。

○地域住民の孤立の防止

市内で連続発生した痛ましい孤立死事件を防ぐため、住民の誰もが孤立しない生活を送れるように、地域の「縁側」や「井戸端」といったたまり場、交流の場としての「支えあいサロン」活動を推進する。また、住民相互の助け合い活動などの支援も行う。

○震災対策の強化

関係団体と協働した災害ボランティアリーダー養成講座の開催、災害ボランティアセンター立ち上げ訓練の実施、防災懇談会の開催を行うほか、災害時の関係機関との連携を深めるための災害対策ネットワーク会議の開催など、発災時の備えを強化するとともに、震災対策を通じて平時の地域コミュニティをつくっていきたい。

○各種委員会・協議会などへ参画しての新たなネットワークづくり

センターへの期待値の高まりと共に、各種委員会や協議会などの参画依頼が増えている。ネットワークづくりの機会として積極的に参画していく。

・地域学習館運営協議会、立川市子ども支援ネットワーク、高齢者虐待防止ネットワーク、立川市人権学習事業実行委員会、立川市交通マスタープラン会議、地域ケア会議など

以上、主な重点事業を掲げたが、運営委員によるセンター運営を土台として、「協働の推進」「地域づくり」「市民活動支援」のキーワードに基づいた事業を着実に進めていきたい。

VI. 市民活動センターたちかわ平成 24 年度収支決算(概略)

(単位円)

科 目	予 算	決 算	差 異
会 費 収 入	2,190,000	2,308,600	△118,600
寄 付 金 収 入	4,051,000	4,051,000	0
経常経費補助金収入	22,530,000	22,530,000	0
立川市受託金収入	13,224,000	13,225,000	△1,000
事 業 収 入	439,000	424,920	14,080
共同募金配分金収入	2,650,000	2,650,000	0
雑 収 入	1,012,000	1,265,939	△253,939
経理区分間繰入金収入	450,000	4,115,000	△3,665,000
経常活動資金収入計	46,546,000	50,570,459	△4,024,459
人 件 費 支 出	36,305,000	34,974,174	1,330,826
事 務 費 支 出	7,271,000	5,953,720	1,317,280
事 業 費 支 出	7,417,000	4,328,275	3,088,725
共同募金配分金支出	2,650,000	2,650,000	0
助 成 金 支 出	3,380,000	2,261,018	1,118,982
経常活動資金支出	57,023,000	50,167,187	6,855,813
経常活動資金収支差額	△10,477,000	403,272	△10,880,272

1 収入について

- *事業収入は、NPO ガイダンス、貸出し機材の利用料等
- *雑収入は、夏！体験ボランティアの参加費、実習生の受入謝礼等

2 支出について

- *人件費支出は、正職員 5 名、事務職員 3 名分
- *事務費の主な支出は、運営委員旅費、市民活動センターたちかわ通信の郵送代等
- *事業費の主な支出は、NPO 実務講座の講師謝礼や機材リース料等
- *共同募金配分金支出は、市民活動センターたちかわ通信作成費等
- *助成金支出は、市民活動センターたちかわ助成事業、支えあいサロン助成金等

3章 資料

I. 平成 24 年度登録団体

各団体の詳細は、市民活動センターたちかわのホームページをご覧ください。

URL: <http://www.tachikawa-shakyo.jp/skct/>

○障害のある人や高齢者、医療に関するグループ

団体名	活動内容
ACT・立川たすけあいワーカーズ パステル	高齢の方、障害のある方、子育て中の方対象の生活援助
特定非営利活動法人 アラノンジャパン	お酒の問題に影響を受けた家族や友人のグループ
いろとりどり	摂食障害の回復を望む女性を支援する活動
いろりん	障害当事者によるリサイクルショップ経営
LFGかるがも愛の家族立川	人間関係に適応していく能力の回復を目指すグループ
音声ガイドを楽しむ会 (バリアフリー映画会)	障害者・高齢者のための音声ガイド付きの映画上映会
ガイドヘルプサービスあい	障害のある方のための移動支援・送迎
片麻痺ネットワーク	パソコン教室の実施
花音	障害のある方の就労支援施設
聞き書きボランティア・多摩	高齢者の話を聞き、記録し小冊子にして贈る活動
きずなの会 東京	高齢者や障害のある方への生涯支援
ぐる〜ぶ あゆみ	障害のある子どもたちのために布の絵本や遊具の製作
クローバーの会	聴覚障害のある方の理解と手話技術の向上
特定非営利活動法人 ケア・センターやわらぎ	高齢者・障害者への介護保険サービスや自立支援サービス事業等
特定非営利活動法人 こぶしの会	知的障害のある方が働く場
特定非営利活動法人 こらそん	障害のある方と障害のある子ども対象の余暇支援活動
在宅ホスピスケア・ ボランティアさくら	ホスピスケアを受けている患者やその家族のサポート
三多摩市民後見を考える会	成年後見制度の学習と啓蒙・普及活動
特定非営利活動法人 しらゆり	知的障害のある方が働く場
特定非営利活動法人 自立生活センター・立川	障害のある方が自分らしく生活するためのピア支援活動
特定非営利活動法人 SPORTS・ACT LaLaLa 柏	知的障害のある方が働く場

ダウン症児の家族の会 「たっちの会」	ダウン症児の家族同士による情報交換や悩み相談
立川市視覚障害者福祉協会	視覚障害のある方自身による社会参加推進活動
立川市肢体不自由児・者父母の会 たつこの会	肢体不自由児とその親のための交流活動
特定非営利活動法人 立川市障害者後援会	身体・知的・精神障害のある方への支援と理解を広める活動
立川市聴覚障害者協会	聴覚障害のある方同士の親睦や、障害理解を広めるための活動
立川失語症さくら会	脳卒中や交通事故の後遺症者の回復支援活動
立川市手をつなぐ親の会	市内在住の知的障害児・者の福祉増進と援助活動
立川手話こぶしの会	ろう者との交流や手話技術の向上、ろう者の問題を共に考える
立川手話友の会	日本手話とろう文化をろう者から学び理解を深める
立川市朗読サークル「こえ」	視覚障害のある方のために録音テープや CD を製作
立川精神障害者家族会 (通称:立川麦の会)	精神障害のある方が安心して住み続けられるまちづくり活動
立川点字サークル	視覚障害のある方のための点訳活動
立川福祉作業所	知的障害のある方が働く場
特定非営利活動法人 立川マック	アルコール依存症回復のためのプログラム活動
特定非営利活動法人たんと の会 立川けやき福祉作業所	知的障害のある方が働く場
特定非営利活動法人 たんぽぽ	障害のある方が働く軽食・喫茶店
地域デイサービス テイクオフ	知的障害のある方の余暇活動の場
特定非営利活動法人 地域福祉サービス協会	高齢者・障害者が地域で暮らすための助け合い活動
中途失聴・難聴者 「つばさの会」立川	高齢者や聴覚障害のある方同士の交流の場
東京立川断酒新生会	仲間と共に酒害からの回復を目指すグループ
(独)国立病院機構 災害医療センターボランティアの 会	外来患者の受付・案内サポート
ボランティアグループ“木苺”	柏地域サービスセンター(高齢者デイ)でのボランティア活動
ユニバーサルボランティア東京	高齢者による高齢者のための話し相手活動
ラッキークローバー	知的障害児を持つ家族として余暇活動や勉強会を開催
音訳*おと	視覚障害のある方のために朝日新聞の記事を読んでいるグループ
特定非営利活動法人 いもっこの会	障害者の福祉作業所
特定非営利活動法人 柿の木ネット	精神障害のある方のための就労継続支援事業所

○こどもや子育てに関するグループ

団体名	活動内容
With ママ	東日本大震災の子育て支援のためのフリーマーケット
エル・ソレイユ 「やさしい時間プロジェクト」	「優しい時間」シリーズの企画展開
おはなしたまご	読み聞かせのグループ
親子で学ぶサークル 『ハーモニー』	講師を交えた英語、体操、リトミック等の活動
学校ボランティアサークル 学ボラの会	富士見町を中心とした学校支援ボランティア
特定非営利活動法人 教育支援協会【多摩っ子クラブ】	小学生を対象としたアフタースクールの運営
ぐる～ぶ遊樂子	子ども向けのお話会の開催や布絵本作成
子育て・いれかわりたちかわり	子育てサークルや支援団体のネットワーク活動
子育て支援ボランティア ミニトマの木	子育て支援、見守り保育ボランティア
市民型ソーシャルワーカー ほっとほっとたちかわ	傾聴を中心にした子どもと家庭のための訪問支援活動
特定非営利活動法人 市民共同学習プロジェクト 子どもひろば	子どもが自分を守る力をつけるための出前講座や不登校児支援
社会教育団体 MOI	音楽療法を通じた子育て、自主教育、仲間づくりの活動
すくすくフォローグループ	小さく生まれた子と親への支援活動
スマイル	若葉町での親子グループ活動
立川家庭教育を考える親の会	子どもの自立を目指した家庭教育の親の勉強会
特定非営利活動法人 立川子ども劇場	子どもたちに演劇・音楽・芸術・遊び等の文化的体験を提供
立川マザーズ	ひとり親家庭の母子・父子等の交流親睦活動
たまがわ・みらいパーク 企画運営委員会	子どもを中心とした遊び場・学び場の運営
特定非営利活動法人 東京賢治の学校	シュタイナー教育をベースにした自主学校
和みアカデミー	幼児から高齢者を対象に自由な学びの場を提供
社会福祉法人 西立川児童会館	18歳までの子どもを対象にした自由な遊び場活動
はぐはぐ	子育て中の親が語り合い、子どもたちが安心して遊べる居場所活動
パドマ	子ども連れで参加可能なヨガサークル
ボーイスカウト立川第7団	子ども達の健全な成長のために指導者のもとにスカウト活動
Body and Soul	思春期の子どもたちの体と心について必要な情報を届ける活動

ママの杜	母親のための情報交換、講座開催
夢たち応援団	「夢たち 子ども 21 プラン」の推進、バックアップ
子育て交流ひろば 立川おもちゃ図書館ぱれっと	障害のある子もない子も利用できるおもちゃ図書館、交流ひろば
福島と立川の子どもたちの会	福島の子どもたちを対象に被災地支援を行うグループ
福島の子どもの幸せを願う会	福島の子どもたちを支援するために募金活動等を行うグループ

○環境に関するグループ

団体名	活動内容
特定非営利活動法人『キャップの貯金箱』推進ネットワーク	ペットボトルキャップを回収・換金し NGO へ寄附
特定非営利活動法人 集住グリーンネットワーク	緑豊かなまちづくりのための環境教育や雑木林保全活動等
砂川・鳴く虫愛好会	「鳴く虫」など昆虫の生息区域を確保し保存していく活動。
たちかわエコパートナー	清掃活動や環境学習講座の開催
立川かんきょう市民の会	親子の自然体験学習や環境イベントの実施
立川市食器再使用推進協議会	環境に配慮した生活知識の普及啓発
玉川上水の自然保護を考える会	玉川上水の自然保護活動
特定非営利活動法人 バイオマス産業機構	CO2 削減にかかわる環境整備事業・社会教育・人材育成
特定非営利活動法人 武蔵野の里作りクラブ	昭和記念公園内で武蔵野の農村風景再現と体験活動
特定非営利活動法人 グリーンサンクチュアリ悠	樹林の保全活動

○文化・スポーツに関するグループ

団体名	活動内容
石田倉庫の住人	アート・クラフトの体験教室や地域イベント開催
歌扇会	福祉施設等で歌や踊りのプログラム提供
エムズスタイル	アルファ波音楽に合わせ、バンドを使っのエクササイズ
特定非営利活動法人 円十字協力	氣功教室を通じて、アジアの学生を支援
キネマ たちかわ	優れた映画の自主上映サークル
キューティー・コア	誰もが参加できるエクササイズ活動
シネマ 16	定例映画会・映写機学習会
シャンティ	女性の身体を考えたヨガサークル

特定非営利活動法人 SPORTS・ACT	地域スポーツの環境整備と障害者の地域支援事業
すみれ寮ぼれぼれコンサート	障害の有無を問わず楽しめるコンサートの企画実施
創作和太鼓集団 絆-Kizuna-	高校生会員による和太鼓の講習会、交流会、演奏活動
そば打ち友の会	そば打ち技術の習得と福祉施設などでのそば打ち体験
立川親と子のよい映画をみる会	良質な映画の定例上映会
立川市テニス向上委員会	テニスのマナーや技術の無料レッスン提供
立川市ラジオ体操協会	ラジオ体操を通じた健康で明るい地域社会づくり
立川まちおん	ストリートミュージシャンを主としたライブ、コンサートの実施
多摩 fun アート	重度障害者の臨床美術に関する創造活動
多摩ミュージック 21	子ども、障害者、高齢者を対象に良質で安価なコンサートを開催
南京玉すだれアーティストの会	南京玉すだれの習得と普及活動
虹の音楽隊	高齢者や児童施設、地域イベントでの演奏活動
ハワイアングループ —WAIPIO PLUS—	高齢者施設や地域イベントでハワイ文化を広める活動
プルメリア・フラグループ	高齢者施設や地域イベントでハワイ文化を広める活動
文化・芸術いきいきネットワーク (通称 CAN)	高齢者施設へのアクティビティの提供と支援
本町	介護施設、幼稚園でのお囃子、演奏活動
ミュージック・トレイン	乳幼児やその家族を対象にしたコンサート活動
みんなの展示場 中村洋久絵画館	絵画や手作り作品の無料展示、観覧
八舞て会	高齢者施設や地域イベントで日本舞踊、民謡踊りを広める活動
和太鼓 趣	地域のイベントで和太鼓の演奏、交流
らくらくヨガ	ヨガ教室
日本書を選定して読みあう会	日本書の価値観を読書会を通して広める活動

○多文化共生に関するグループ

団体名	活動内容
立川国際友好協会	在任・在勤外国人のための日本語教室
特定非営利活動法人 たちかわ多文化共生センター	外国人のための相談受付や多文化共生イベントの実施
特定非営利活動法人 日本ネパール友好協会	日本在住ネパール人の生活支援や就労支援

○地域づくり・まちづくりに関するグループ

団体名	活動内容
愛犬パトロール グループの会	愛犬を伴った防犯活動や地域環境美化活動
あすなる洋裁グループ	福祉施設等の依頼に応じ衣類や小物の作成
sSLc NPO 福祉団体セフティーライフ	防災、音楽、美術等のボランティアを通して、住みよい社会作りを行う
キャットニップ	地域ネコの保護・管理
グッドネイバー 西砂・一番	町内で「良き隣人」として人と人をつなぎ支える活動
ぐるーぷ「たけのこ」	使用済み切手の整理
公的施設に市民交流喫茶室をつくる会	市民交流喫茶を作る活動
特定非営利活動法人高齢社会の食と職を考えるチャンプルーの会	コミュニティレストランや地域の居場所づくり事業
栄町地区 グッドネイバーをすすめる会	町内で「良き隣人」として人と人をつなぎ支える活動
栄町猫対策委員会	地域ネコの保護・管理
特定非営利活動法人 さんきゅうハウス	路上生活者への炊き出し、物資配布等の支援活動
しおりの会	海外の子どもたちに千代紙の作品を送る活動
シニア倶楽部	高齢者を対象にした相談・講習会の実施
柴崎町地区 グッドネイバー推進協議会	町内で「良き隣人」として人と人をつなぎ支える活動
市民活動資料・情報センターをつくる会	市民団体発行の通信やミニコミの保存・収集公開活動
市民の学習・活動・交流センター シビル	市民の学習や活動・交流を支援する活動
市民のひろば 憲法の会	憲法集会や社会問題に関する学習会の開催
社会福祉法人 至誠学舎立川 ワークセンターまことくらぶ	知的障害のある方が働く場
特定非営利活動法人 立川教育振興会	教育・文化に関する講演会開催や学校支援ボランティアの推進
立川地域猫の会	飼い主のいない猫のトラブルをなくす活動
立川よいと祭り実行委員会	市民相互のふれあいと郷土意識向上を目的とした祭の実施
立川市災害ボランティアネット	関係機関と連携した防災、減災活動
東京にしがわ大学	誰もが参加できる学びの場
西砂・一番市民活動ネットワーク	つながる場・オープンガーデンづくり
ハーブを楽しむ会 ローズマリー	ハーブについての学習会、料理教室
富士見町団地管理組合法人 見守りネット・結サポートセンター	富士見町団地居住者同士の見守り、支えあい活動

フリー談話室さぼう	誰もが利用できる談話室の運営
ふるさと復興支援 net.again	コンサートを通じての被災者支援活動
ほっとステーション 砂川口前 さくらんぼ保育園	保育園の運営や親子教室の開催
友遊会	メンバーの特技を活かした交友活動
若葉町の福祉を考える会 グッドネイバー若葉	町内で「良き隣人」として人と人をつなぎ支える活動
若葉町ボランティアグループ	高齢になって外出が少なくなった方たちの仲間づくり
たちかわ市民みらい会議	市民による市制参画、条例策定推進、勉強会等を行うグループ

○いろいろな相談事業に関するグループ

団体名	活動内容
(学習とボランティアの会) たちかわパソコン倶楽部	初心者を対象にした無料相談会や福祉施設での講座実施
特定非営利活動法人 「育て上げ」ネット	若者就労支援事業
特定非営利活動法人 市民活動 サポートセンター・アンティ多摩	市民活動団体や個人へ向けた情報誌作成や活動支援
チャイルドライン たちかわ	18歳までの子どもを対象にした電話相談活動
パソコン相談員研究会	初心者を対象にした相談・講習会の実施
特定非営利活動法人 より良い 住宅環境作りを支援する会	新規住宅購入や健康住宅を考える講座の実施等
特定非営利活動法人 ライブリー	家庭内の問題についてのカウンセリングや法務相談事業

Ⅱ. 平成 24 年度登録サロン

(高)は高齢者中心のサロン、(子)は子育て中心のサロン、無印はその他

町名は主な活動拠点を指す。

サロン名	活動内容
親子で学ぶサークル『ハーモニー』 (子)/高松町、幸町、西砂町	読み聞かせ、歌、自由遊び、講師を交えた「わらべ歌」 講習、遠足等
スキップママ(子)/富士見町	体操・料理・クラフト・子育て講座開催等
パドマ(子)/富士見町	全世代を対象とし、ヨガ、情報交換
子育てママテニスサークルTC(子)/砂 川町	茶話会テニス・読み聞かせ等
テニスサークルママム(子)/錦町	茶話会

さき織りボランティアグループ ひめりんご(高)/若葉町	さき織りを中心とした交流
あすなる会(高)/富士見町	地域の方と知的障害者作業所とのゲートボールを通しての交流
サラおしゃべり会(高)/若葉町	茶話会や企画の開催
若葉町ボランティアグループ(高) /若葉町	ミニデイサービス
さかえ友悠クラブ(高)/栄町	茶話会。週代わりで昼食会、語らい、カラオケ、囲碁、ビデオ鑑賞、手芸
はなみずき(高)/幸町	茶話会
健康麻雀友の会(高)/若葉町	健康麻雀
松中団地みんなのサロン会(高) /一番町	話し合い、茶話会
いきいきサロン(高)/栄町	健康体操
福祉あすなる会(高)/富士見町	散歩及び切手整理等
さかえサロン(高)/栄町	ヨガ
さゆりの会(高)/幸町・砂川町	ストレッチ体操
ワークアウト F o r . M r s . の会 (高) /錦町	エアロビ、親睦会
たんぼぼの会(高)/泉町	太極拳、お茶会
麦(高)/西砂町	茶話会・手芸、お菓子作り
じゅんじゅん(子)/曙町	アフリカダンス
あら七あらっ八(高)/高松町	茶話会、おしゃべり
健康体操サークル(高)/高松町	健康体操と学習
生き生き健康体操伸和会グループ (高)/栄町	健康体操、お話
ひまわりの会(高)/富士見町	書道を通じた身体障害者のリハビリとケア
編み物サークル(高)/若葉町	編み物
コスモス体操会(高)/若葉町	健康体操
健康体操スロー会(高)/高松町	健康体操
すみれの会(高)/富士見町	健康体操
上砂体操クラブ(高)/上砂町	健康体操
熟年男性料理の会(高)/幸町	料理
親ワザ学びの会「ナチュラ」(子) /砂川町・柴崎町	親業の講習会や自主学習会
わかば麻雀くらぶ(高)/若葉町	健康麻雀
ヨガサークル Namasute(子)/柴崎町	健康づくりのためのヨガ

BBP(高)/富士見町	パソコン勉強会
みんなのサロン(高)/富士見町	健康体操、茶話会、食事会
麻雀クラブ花ショープ(高)/高松町	健康麻雀
創年クラブ(高)/上砂町	体操、脳トレ、茶話会
ヨーガ60(高)/錦町	60代の女性を中心とした初級ヨガ
こんびら体操クラブ(高)/砂川町	ウォーキング
HOTサロン(高)/高松町	体操、ボランティアによる余興、おしゃべり
桜(高)/栄町	健康体操
南部健康サロン(高)/栄町	健康体操
いずみ会いきいき体操サークル(高) /泉町	健康体操
楽々太極拳(高)/一番町	太極拳、茶話会
健康体操クラブ(高)/曙町	健康体操
エステート・暮らしの相談室(高) /一番町	喫茶、簡単な修理・家事のお手伝いを行う
トリム体操上砂スマイル(高)/一番町	トリム体操
パレス会(高)/曙町	茶話会、脳トレ体操、手芸
プラザシティ健康体操クラブ(高) /曙町	健康体操
上砂たのし会(高)/上砂町	踊り、おしゃべり、唄、お茶会
スマイル・ママ(子)/高松町	親子でできる体験
生き生きすみれグループ(高) /若葉町	健康体操
whoopee(子)/柏町	お茶会、子どもの英会話、誕生会、エクササイズ
寅の子会(子)/幸町	情報交換、体操など
トリム体操さくらクラブ(高) /一番町	健康維持、体力増進のための体操
高松おしゃべりサロン(高)/高松町	茶話会
キラキラサロン(高)/砂川町	茶話会
よつ葉グループ(高)/若葉町	健康体操
こんびらサロン(高)/上砂町	茶話会、編み物
すまいるサロン(高)/曙町	食事会
上砂いきいき(高)/上砂町	健康体操
シャンティ(子)/富士見町	ヨガ、情報交換
檜山さんちのえんがわ(高)/上砂	茶話会・交流会
まんまるヨガ部(子)/若葉町	ヨガ、情報交換

ほのぼの(高)/砂川町	茶話会、野外活動
上砂フレンド(高)/上砂町	生き生き体操
パンプキン(子)/幸町	子育てサークル
杜のつどい(高)/若葉町	体操、茶話会
なかよしサロン(高)/栄町	食事会
たちかわまみーくらぶ(子) /富士見町	茶話会
テュットカフェ(子)/富士見町	茶話会、子育て広場、ハンドメイド
らくらくヨガ(高)/若葉町	ヨガ
けやき台ものづくりの会(高)/若葉町	手芸
けやき台歌とおしゃべりの会(高)/若葉町	歌、おしゃべり
ふれあい喫茶(高)/一番町	茶話会、おしゃべり
レインボー(子育て)/若葉町	おしゃべり、英会話
紬(高)/曙町	手芸、体操、茶話会
けやき台生き生き体操教室(高)/若葉町	体操
ひまわり仲良し会(高)/上砂町	料理、脳トレ、歌、気功
3丁目の安田さん家(高)/柏町	おしゃべり
らびどらの会(子)/幸町	子育ての情報交換会
幸ふれあいサロン(高)/幸町	食事会
たんぼぼ(高)/上砂町	体操
「支えあいサロン」昼食会羽衣町(その他)/羽衣町	調理実習、食事会
けやき茶屋(高)/西砂町	茶話会
サンクタスもう一つの居場所(その他)/緑町	おしゃべり
ラビッツ(子)/幸町	子育て情報交換、体操
幸ストレッチ教室(高)/幸町	ストレッチ体操、リズム体操、筋トレ、茶話会
カフェえのしま(高)/栄町	茶話会
ランチの会(高)/富士見町	食事会
レインボーマム(子)/高松町	茶話会、親子ヨガ
ちびTATSU(子)/幸町	子育て情報交換